

令和2年第15回

札幌市教育委員会会議録

令和2年第15回教育委員会会議

- 1 日 時 令和2年8月7日(金) 10時30分～17時00分
- 2 場 所 札幌市民交流プラザ3階 クリエイティブスタジオ
- 3 出席者
- |                               |     |     |
|-------------------------------|-----|-----|
| 教 育 長                         | 長谷川 | 雅 英 |
| 委 員                           | 阿 部 | 夕 子 |
| 委 員                           | 佐 藤 | 淳   |
| 委 員                           | 石 井 | 知 子 |
| 委 員                           | 中 野 | 倫 仁 |
| 教育次長                          | 檜 田 | 英 樹 |
| 生涯学習部長                        | 小田原 | 史 佳 |
| 学校教育部長                        | 相 沢 | 克 明 |
| 教育推進課長                        | 佐々木 | 薫   |
| 学事係長                          | 茂 木 | 貴 徳 |
| 学事係員                          | 奥 山 | 玲 太 |
| 教育課程担当課長                      | 佐 藤 | 圭 一 |
| 教職員育成担当課長                     | 市 川 | 恵 幸 |
| 企画担当係長                        | 渡 辺 | 一 生 |
| 義務教育担当係長                      | 山 下 | 敦 史 |
| 義務教育担当係長                      | 三 浦 | 敦 司 |
| 中学校部会                         |     |     |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(義務教育担当係長)    | 皆 川 | 慎太郎 |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(研修担当係長)      | 高 梨 | 美奈子 |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(義務教育担当係指導主事) | 福 井 | 浩 史 |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(企画担当係長)      | 鈴 木 | 圭 一 |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(企画担当係長)      | 森 岡 | 香 子 |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(義務教育担当係長)    | 三 浦 | 敦 司 |

教科用図書選定審議会委員 (研修担当係長)	上 野	智恵美
教科用図書選定審議会委員 (研修担当係長)	河 合	博 子
教科用図書選定審議会委員 (児童生徒担当係長)	高 橋	智 子
教科用図書選定審議会委員 (義務教育担当係指導主事)	大 卷	太 一
教科用図書選定審議会委員 (企画担当係長)	高 橋	健 一
教科用図書選定審議会委員 (義務教育担当係長)	阿 部	晋 也
高等学校部会・中等教育学校(後期課程)部会 高等学校・中等教育学校(後期課程)部会部長	阿 部	孝 則
教科用図書選定審議会委員 (高等学校担当係長)	牧 野	弘 幸
教科用図書選定審議会委員 (高等学校担当係長)	野 口	浩 史
特別支援学校部会 特別支援学校部長	北	圭 一
教科用図書選定審議会委員 (特別支援教育担当係長)	北 原	義 之
教科用図書選定審議会委員 (特別支援教育担当係長)	工 藤	雅 文
総務課長	井 上	達 雄
庶務係長	松 平	健 次
書 記	寺 川	嘉 一

4 傍聴者 38名

5 議 題

協議第1号 令和3年度使用教科用図書の選定について

## 【開 会】

○長谷川教育長 これより、令和2年第15回教育委員会会議を開会いたします。  
本日の会議録の署名は、石井知子委員と中野倫仁委員にお願いいたします。  
なお、道尻豊委員より、所用により会議を欠席される旨の連絡がございました。

## 【議 事】

### ◎協議第1号 令和3年度使用教科用図書の選定について

それでは、これから、協議第1号の令和3年度使用教科用図書の選定について審議をいたします。

本日は、これまでの2回の審議を受けまして、中学校用教科書の選定について審議を行うとともに、高等学校及び中等教育学校後期課程用教科書並びに特別支援教育用教科書についても選定の候補が挙げられておりますので、それらについて審議を行ってまいります。

中学校用教科書については、国語（国語・書写）、技術・家庭、理科、美術、数学、外国語（英語）、音楽（音楽一般・器楽合奏）、道徳、保健体育、社会（地理・歴史・公民・地図）の順に審議を進めてまいりたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長谷川教育長 それではこの順で進めてまいりたいと思っております。

まず、本日の審議に入る前に、教科書採択の任を負っている私たちは、札幌市の教科書採択の公正性、中立性をしっかりと確保しなければなりません。

委員の皆様は改めて確認をさせていただきます。

委員の皆様の三親等以内の親族に教科用図書発行会社に勤務されている方がいらっしゃらないこと、そして、前回の審議以降、中野委員は前々回の審議以降になりますが、特定の組織や団体あるいは会社等から働きかけや影響力の行使や圧力等はなかったということによろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○長谷川教育長 ただいま、皆さんから、影響力の行使や圧力等はなかったとの回答をいただきましたので、本日の私たち5人による協議は、教科書採択の公正性、中立性を確保し得るものであると判断いたします。

続いて、2点、確認をさせていただきたいと思っております。

前回までの審議におきまして、中学校部会の各小委員会委員長に、特定の組織や団体あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等がありませんでしたかと私から質問をいたしました。が、いずれもありませんという回答でしたので、調査研究に対する圧力等はなかったということを改めて確認させていただきます。

また、小委員会委員長などの意見につきましては、学校教育に携わる専門的な見地からの発言として参考にしてまいりましたが、本日の審議に当たりまして、同様に参考意見ということで考えていきたいと思っております。

皆さん、この2点についてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)。

○長谷川教育長 なお、本日は、審議会委員でもあります各担当の指導主事に出席を求めていますので、審議の中で必要があれば、随時、質問をしていただければと思います。

それでは、中学校用教科書についての審議を始めます。

本日の審議は、前回までの審議において選定の候補とした教科書から1者を選定いたします。これまでもそうですが、各教科書の特徴などから、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかといった観点を大切にして審議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、国語と書写から審議を始めます。

初めは国語です。

7月27日の審議におきまして、国語は東書、教出、光村の3者を選定の候補といたしましたので、この3者の中から1者を選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問などがございましたら、お願いいたします。

特に追加の質問はよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、それから、前回の質疑応答などを私のほうで整理をしてみますと、国語の場合につきましては、学びの基盤となる「読書」の取扱い、「書くこと」領域における課題探究的な学習活動の取扱いといった観点において各教科書の特徴が見られたと思っておりますけれども、そのような整理でよろしかったでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、こういった観点を中心に、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということについて、各委員からの意見をいただきたいと思います。

それではまず、阿部委員からよろしく願いいたします。

○阿部委員 私は光村図書とっております。

前回も申し上げたのですが、全体的な構成が中学生に分かりやすく表現されているという点が秀でていたと思っております。

主体的という意味では、全学年の巻頭のところに「思考の地図」というコーナーがございまして、思考に関してどういう考え方をしているのかということ、非常にわかりやすくまとめてくださっていると思っております。

あとは、読書に関しましては、「私の一冊を探しにいこう」というコーナーがあって、なおかつ、カテゴリー別に本を紹介していただいているところから、子どもたちが興味関心をもって自分の1冊を探しに行けるつくりになっていることと、他の教科との関連というところにも非常に重視していただいていると感じます。

課題探究の観点におきましては、根拠の大切さを考える点における説明もありましたので、そういった観点から総合的に見ますと、光村さんがよいのではないかなと思っております。

○長谷川教育長 石井委員、お願いいたします。

○石井委員 私も光村図書がよいのではないかと考えています。理由としましては、見通しをもって学習に取り組めるところ、あとは読書です。読書に関しては、全体的に読書を楽しむ姿勢をすごく感じまして、読書生活をデザインするとか、生活を豊かにという点において、こういったことを中学生の時に学んでおくと、生涯にわたって読書を楽しむ姿勢が培われるのではないかと思います。

また、「書くこと」領域におけるところでも、光村図書は、1年生や2年生で根拠を示して説明するところがあります。他者さんにも、同じように資料を引用して根拠を説明するところがあると思うのですけれども、光村さんは、複数の資料を具体的に引用したり、レポートの例や情報を引用する際の注意点にも触れていて、非常に実践的だと思いました。

また、2年生にも根拠の適切さを考えるところがあるのですけれども、そこで光村がよいと思ったのは、反対意見を想定して書くということで、異なる立場か

ら考えたり、異なる立場の相手を尊重するところが非常によい点だと思い、光村図書が優れているのではないかと思っています。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私も、総合的な教科書としての質の高さからすると、光村図書を推したいと考えております。

それは、2人の委員からお話しされたことに大体同意するわけですが、様々な観点から論点を整理して課題を探究する点において、出来が非常によいと思っています。

あとは春夏秋冬です。季節ごとに適切な国語の題材を、美しい日本語としてかなり留意して選ばれておられることから考えますと、表現力を磨くことと日本語を大事にする観点からいって、他者より光村のほうが一つ優れていると考えますので、私は光村図書を推したいと考えています。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 私は東書と光村で大いに迷いました。東書は、前回も指摘しましたように、巻末資料に論理的な読み書きをトレーニングする部分が工夫されておりまして、確認しますと本編でも他者より手厚いのです。

もう一点は、東書は漢字の多くに振り仮名がよく振られているのです。これは光村と非常に対照的で、東書は丁寧ないろいろな漢字に振り仮名が振られているのです。これについては両論あると思うのですがけれども、私としては振ってあったほうが読みやすいメリットがあるのではないかと考えているのです。

ただ、市民意見の多くが光村を支持しておりまして、先生方の中にも同じ声が多いということは承知しております。光村にも論理的なトレーニングができる教材が含まれておりますし、漢字については、自分で調べることもできるという小委員会のご意見もございましたので、そういうことを勘案すれば、そもそも光村は国語の水準の高さでは定評がありますし、安定感も抜きんでていることも感じます。

そういうわけで、私の結論としては光村を推したいという意見であります。

○長谷川教育長 ただいまの皆さんのご意見なども踏まえまして、総合的に判断いたしますと、国語につきましては、光村が札幌市の子どもたちにとって、より望ましいのではないかと考えられますけれども、そういったことでよろしいでし

ようか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、国語については光村を選定することで決定いたします。

続きまして、書写について審議を行います。

書写につきましても、7月27日の審議におきまして、東書、教出、光村の3者を選定の候補といたしました。この3者の中から1者を選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、さらに委員の皆さんからご質問などがございましたらお願いいたします。

前日も私から同様の質問を差し上げたと思えますけれども、国語と書写は、教科書の会社が替わったとしても、指導上、特に問題はないという理解でよろしいでしょうか。

○皆川義務教育担当係長 そのとおり、指導上の支障は全くございません。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

そのほかに質問はよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議におけます小委員会の委員長の報告、それから質疑応答などの内容を整理してみますと、書写の場合につきましては、使用上の配慮等や課題探究的な学習活動の取扱い、こういった観点などにおいて教科書の特徴があったと思えますけれども、こういった整理でよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、この観点を中心に、札幌の子どもたちにとってどの教科書が望ましいかということについて、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思えます。

先ほどは阿部委員からお願いいたしましたので、次に、石井委員からお願いできますでしょうか。

○石井委員 私は、教育出版と光村図書ですごく迷ったのですが、最終的には光村図書がよいのではないかと考えています。というのは、書写ブックが保護者としてすごくよいと思ひまして、自宅で書写の勉強するのにもすごく役立つのではないかと思ひました。

あとは、実際に学校で使用するかどうかは分からないのですが、QRコードを見させていただいたところ、毛筆の書き方がすごく丁寧で、筆の動かし方なども動画で見ることができるので、これも自宅での書写の勉強によいのではないかと思ひました。

光村さんを推したいと思ひております。

○長谷川教育長 中野委員、お願いできますか。

○中野委員 私はこの3者に大きな差はなく、どの1者が特に抜きんでているということはあまりないと思ひます。ただ、光村は、いろいろと多面的に考えながら課題を追究するところにやや特徴があると思ひます。

あとは、「書写テストに挑戦しよう」や「日常生活に役立つ書式」などの観点も入れてありますし、現在も光村図書を書写として採用していることもございまして、ここで変更する強い理由はなく、光村図書を継続するべきと考えました。

○長谷川教育長 佐藤委員、いかがですか。

○佐藤委員 私は、これも東書と光村で迷いました。

私は、書写に関しては実用性というあたりに着目して各者を比較していたのですが、東書については、生活に広げようというところで他者より実用性の高さが目立っていたと思ひます。

一方、光村は、今、中野委員から「日常に役立つ書式」についてのご指摘がありました。それが章になっていて、ほかにもコラムで日常とのつながりに配慮された構成になっている点で見劣りはしていません。

どちらかなと思ひたときに、石井委員がおっしゃっていた書写ブックですが、この評価につきましては小委員会でも高かったというご報告でしたので、この書写ブックの部分でどちらかと言えば光村を推したいと考えます。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私は、光村と教出の2者で非常に迷っているところがありまして、使用上の配慮という点においては2者を比較してもそんなに変わらないと思ひ

ています。しかし、課題探究という点におきましては、教出は、まず、目標を立てて、その目標に対して考えようというところからスタートして、それを確かめて、生かそう、振り返ろうというふうに、課題探究につながる視点を表現してくださっていることと、その後、その目標に対応するように生活に生かせるコラムが関連付けられている点と、その充実したコラムに非常に共感できる点がありました。

光村は、書写ブックにより、使用上の配慮というところに秀でている部分があると思うのですけれども、どちらかというとならぬと教出のほうが子どもたちに適していると考えておりました。

○長谷川教育長 今、阿部委員から光村と教出を比較して、教出のほうが子どもたちにとって使いやすい、優れている教科書ではないかというご意見がございましたけれども、ほかの委員はいかがでしょう。

それに対しては、光村もこういった取組などで対応していることがあると思いますけれども、その辺で各委員からご意見がありましたらお願いいたします。

先ほどの阿部委員からのお話について、課題探究等のところも含めて、教出のこういったところが優れているのではないかということについて、ページ等も含めてお話しいただきたいと思います。

○阿部委員 先ほど、教育出版のコラムのお話をさせていただいたのですけれども、前回も申し上げましたが、22と23ページの筆や炭、すずりや紙について知ろうということが光村さんのページには見当たりませんでした。

また、教出はこのコラムだけではなくて、コラム全般にわたって非常に充実した内容になっているところがありました。光村も取上げ方は上手にやってくさっているのです、どちらを選んでもそんなに大差はないというのは正直あるのですが、とにかくコラムの充実度が非常に高いところが子どもたちの興味関心につながっていて、課題探究につながっていく教科書という感じが私の中では非常に高かったところです。

それが光村さんには全くないかという、そういうことではないと思います。そういうところで教出が秀でているのかではないかという印象です。

○佐藤委員 実用性というところで教出も見させていただいたのですけれども、確かに、教出にも「お薦めの本の帯」や「ポップ」を作るとか、ポスターを描いたり、新聞を書くページはあります。しかし、ここを光村、東書の取上げ方、内容の厚みのあたりで見ますと、少しライトな感じだと思ひまして、私としては光村のほうがより細かく書いてある感じがいたしました。

○長谷川教育長 阿部委員がおっしゃっていたように、教出にはコラムが取り上げられているので、子どもたちが興味関心をもつことはそのとおりだと思います。実際の書写そのものの指導の仕方やその内容で見た場合に、今は光村と教育出版になっていますけれども、その辺はどうでしょうか。皆さんが書写の教科書を見た場合に、指導ということを考えてと違いがあると思いますけれども、どうですか。

○石井委員 先ほど言ったように、私も教育出版と光村で悩んだのですけれども、私がなぜ教育出版で悩んだかという、阿部委員もおっしゃっていたように、課題探究というか、コラムの充実さがあるからです。それから、日常生活に生かして書こうというところで、子どもたちにより密着して、学校内の活動に即したことが載っていることも非常に悩んだ点でした。また、写真資料が多いので、見やすいと思いました。

先ほども言った光村のほうは、今は見られないのですが、QRコードが載っています。子どもたちがQRコードをどこまで使うとか、見るかというところは言いかねますけれども、その辺では資料が充実していると思いました。

実際の書写となると書き初めなどをすることが多いと思うのですが、光村には毛筆のQRコードも載っていて、先ほども意見をされたのですけれども、実際にQRコードを当てると筆で書いている様子が見られます。それは、例えば、子どもたちに書き初めの宿題が出たときにすごく役立つのではないかと思います。私は、その点や、活動、書写の学習に関しては光村のほうが使用しやすいと思いました。

○長谷川教育長 ほかにいかがですか。

○中野委員 教育出版のほうは、コラムにも写真を非常に多用してすごく分かりやすくつくっていらっしゃると思います。光村にも同じようなコラムがあるのですが、ちょっとあっさりとしているので、そういう差があると思います。

書写は、実際に筆を使って書くことがメインだと考えますと、光村はQRコードなどで資料が引けますので、こちらの方が若干優れていると思います。教出のコラムは確かに優れていると思いますが、そこを逆転するところまではいかないと思いますので、僅差で光村というイメージをもっています。

○阿部委員 私は教出でなければ絶対に駄目ということはないのです。光村には優れているところがたくさんありますし、書写という角度を考えますと、書写

ブックは教出にはないので、そういう観点においては光村が選択されても大きな差があるわけではないと思います。皆さんのご意見を聞く限りでは、光村でもよいと思います。

○長谷川教育長 分かりました。

ほかには、特によろしいですか。

今、阿部委員から、教育出版もすごく優れているけれども、ほかの委員の方々のご意見も納得できるという部分で、書写については光村でもよいということですね。

○阿部委員 はい、もちろんです。

○長谷川教育長 それでは、書写につきましては、光村が札幌市の子どもたちにとって、より望ましいのではないかとということで、決定させていただきます。

次に、技術・家庭科の審議を行いますので、準備をお願いいたします。

それでは、初めに、技術分野から行います。

7月27日の審議におきましては、対象となる東書、教図、開隆堂の3者を選定の候補といたしました。ここから1者を選定することになります。

まず、前回の審議でありますけれども、あまりご質問が出なかったようでしたので、この機会に各委員から改めてご質問等がございましたら、お願いいたします。

○石井委員 1点、質問させていただきます。

開隆堂さんのみにトレードオフが生じた場合の最適化の考え方が記載されていると思うのですが、そのことが載っていることによって、子どもたちにどういった学びの効果があるのかなど、何かありましたら教えてください。

○福井義務教育担当係指導主事 今、トレードオフのお話が出てきましたが、教科書で言いますと、開隆堂の52ページになります。

こちらでは、トレードオフと最適化ということで、様々な制約条件の中から折り合いをつけながら最も適した考え方や回答を導き出す考え方がここに掲載されております。

技術分野では、評価、改善、工夫し、創造しようとする実践的な態度を養うことが非常に重要になっており、環境的な側面、社会的な側面、経済的な側面の三つの側面から折り合いをつけながら最も適した考え方、答えを導き出すことによって、実生活に役立てていくことが非常に重要となっております。

○石井委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○中野委員 各者の環境問題についての記載がどのページにも環境マークなどをつけて記載されているわけですが、3者における環境問題に対しての扱い方に対して、何か特徴があったかどうかについて教えていただけますか。

○長谷川教育長 お願いいたします。

○福井義務教育担当係指導主事 環境につきましては、各者それぞれに環境マークという形でつけている部分がありました。各者の取扱い方に多少違いはありますが、大きな差はなかったと考えております。

○中野委員 ありがとうございます。

○阿部委員 2点、お伺いしたいのですけれども、まず、課題探究という角度で見たときに、特徴的な教科書がありしよたら、改めて教えていただきたいということと、もう一つは、情報技術の観点があると思うのですけれども、そこについても各者の特徴を改めて教えていただければと思います。

○福井義務教育担当係指導主事 課題探究的な学習については、まず、問題解決、課題解決のPDCAサイクルのプロセスにのっとって学習を進めていくことが大切だと考えております。先ほどもちょっと申しましたが、さらに技術を評価、改善し、工夫し、創造しようとする実践的な態度を養うことも重要視されております。

これらのことから、実生活につなげていくことが非常に大切になってくると考えられます。

東書ですが、各編の2章が問題解決のプロセスとして五つのプロセスで統一されています。問題解決カードの上部にはいつもプロセスの一覧が示されており、生徒がどのプロセスの活動を行っているか意識して学習に取り組むことができます。

教図は、問題解決が四つのプロセスで統一されておりまして、このプロセスに従って学習を進めることができる構成になっております。

続きまして、開隆堂は、問題解決の冒頭で四つのプロセスの流れを示してお

り、一旦のゴールが見えるようになっております。実習例については、例えば、120ページから122ページになりますが、同様の四つのプロセスを繰り返すことで問題解決のプロセスをしっかりと意識でき、自ら問題を解決する資質・能力を高めることが可能な内容になっております。

2点目の情報の技術のところですが、情報セキュリティと情報モラルについて取り上げて説明したいと思います。

学習指導要領の中にも情報ネットワーク上のルールやマナーの遵守、危険の回避、人権侵害の防止など、情報に関する技術を利用場面に応じて適正に活用する能力と態度を身に付ける必要性について、理解するようになっております。

まず、東書ですが、情報モラルについては、インターネットの身近な事例を解説しながら情報セキュリティの基本的な知識の理解へつなげる構成となっております。

教図は、情報セキュリティの技術を学び、情報モラルと情報の扱い方についてプラス面とマイナス面、さらに事例を示しながら考える内容となっております。

開隆堂ですが、情報セキュリティの重要性や専門的な知識を学び、中学生にとって身近な情報モラルの事例につなげております。中学生が実際に失敗しそうな内容を紹介することにより、自分事として捉えることが可能な内容となっております。

以上です。

○阿部委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、そして、ただいまの質問等も踏まえて、この内容を整理してみると、技術分野の場合については、学習のプロセスや技術の最適化に関する課題探究的な学習活動や情報の技術に関する取扱いで教科書の特徴や違いが見られたと思っております。

こういった観点を含めまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということについて、各委員からご意見をお願いしたいと思います。

それでは、中野委員からお願いできますでしょうか。

○中野委員 3者で優劣が大きくつく状況ではないと思いますが、私は開隆堂か東書のどちらかと考えています。

この両者の何が違うかといいますと、先ほど、石井委員からご指摘がございましたけれども、開隆堂さんには、トレードオフということで、相反する問題をいかに解決するかという点で、現在における非常に大事な論点がきちんと挙げられている点をまずは評価したいと思います。

あとは、ほかの情報や環境問題については、各者、各々に独自の考え方があって、良し悪しがあるわけではないと思います。また、札幌市では開隆堂の教科書を現在も使っており、経験的に慣れていることがあります。総合的に開隆堂か東書で見ますと、開隆堂のほうを挙げたいとやや思いますので、1冊をとれば開隆堂を推したいと思っております。

○長谷川教育長 佐藤委員、いかがでしょうか。

○佐藤委員 私も3者は甲乙が非常につけがたく、いずれも内容的に優れていると思うのですが、技術においては、物を実際の図版で表示する、あるいは作業プロセスを流れ図で示して図版を目に入りやすくすることが大事ではないかと思うのです。

そうしたときに、3者を手にとって読み始めてみたときに、開隆堂の落ち着いた配色と構成の仕方で、内容が頭に入ってきやすい感じがした点で、いずれかと問われれば、私は開隆堂を推したいと思います。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いできますか。

○阿部委員 私も皆さんと同じように3者で非常に迷いましたが、その中でも、特に皆さんから挙がってきている開隆堂と東書の2者で非常に迷いました。

先ほど質問させていただいた課題探究におきましては、特に東書の場合は、問題解決のプロセスが五つのプロセスに統一されて表現されているということと、もう一つ、非常によいと思ったのは、上部にいつもプロセスの一覧が表現されているので、今、PDCAの中のどこに自分がいるのかということが分かりやすく表現されていると思います。ですので、課題探究的な学習の取扱いという意味におきましては、東書が一つ抜き出ているという印象をもっております。

もう一つご質問させていただいた情報技術の点におきましては、先ほど、セキュリティのインターネットの情報モラルについてご説明いただいたのですが、情報技術を全体的に拝見いたしますと、東書は非常に詳しく、一つ一つのセクションを事細かに説明してくださっていて、開隆堂さんにはざっくり感があるという印象をちょっと受けました。

特に、プログラミングの過程におきまして、プロセスが一つ一つ分かりやすく

表現されているところを考えると、どちらかという東書がよいと私は思っております。

○長谷川教育長 石井委員、お願いできますか。

○石井委員 私も非常に悩んだのですが、開隆堂が適しているのではないかと考えています。というのは、先ほど質問させていただきましたが、トレードオフのところはすごくよいと思いました。

日常生活においても日々選択を迫られる場面は多く、中学生だけではなく、社会人になってもそうなので、学校にいる間に、いろいろな側面だったり、多面的に物事を考えられる学びができるのはよいことではないかと思いました。

先ほど、阿部委員の質問のときに、情報セキュリティの部分の説明をしてくださったのですが、その点で、開隆堂は、子どもたちのより身近な日常生活に即した課題を提示して、考える事例を載せていると思いました。例えば、235ページの著作権のところですが、テレビ番組をDVDに録画して後日視聴することなど、今、著作権の保護はSNSの発展もあり子どもたちにとっても身近な問題だと思うので、そういうものを授業の中でより実践的に考えるのはよいのではないかと思いました。以上です。

○長谷川教育長 中野委員、石井委員、佐藤委員が開隆堂が若干抜きこんでいるのではないかとということと、阿部委員からは東書もすばらしいところがあるということでございました。

東書については、今お話がありましたように、情報技術の取扱いやPDCAサイクルへのもっていき方などに特徴が見られたということです。ただ、情報技術については、開隆堂にもいろいろな取扱いがあるというお話が石井委員からございました。

そのほかに、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

東書は、今、自分はPDCAのサイクルのどこにいるのかというところが分かりやすいというお話がございましたけれども、開隆堂は、逆に、PDCAサイクルへのもっていき方が東書よりも短いサイクルで何回も出てくる取扱いが教科書の中になされています。東書さんのほうが少し長くなっていて、逆に自分の位置がどこにいるのかが分からないので、そこをしっかりと把握できる工夫が見られたように思います。

○佐藤委員 難しいですね。

○阿部委員 札幌市の子どもたちにとって絶対にこっちでなければいけないということはないと思いますし、物凄く差があるわけでもないと感じますので、皆さんの意見を参考にすると開隆堂でもよいと思います。

○長谷川教育長 繰り返しになりますが、先ほど阿部委員からご指摘があった東書が取り上げている情報の技術の取扱いについては、石井委員からお話があったように、開隆堂にも取扱いがしっかりあるということと、P D C Aサイクルの使い方も、東書は長いスパンで使っているけれども、開隆堂さんは先が少し短い中で出てきています。子どもたちがP D C Aを意識しながら授業なり、勉強できる工夫が両者とも取られているということですね。

○阿部委員 そうですね。

○長谷川教育長 いかがでしょうか。

○阿部委員 開隆堂さんでもよいと思います。

○長谷川教育長 本当に難しいところであると思うのですが、どちらを選ばれてもよいということで、開隆堂でもよろしいですか。

○阿部委員 よいと思います。

○長谷川教育長 分かりました。

それでは、今、技術分野につきまして皆さんからご意見をいただきましたけれども、開隆堂が札幌市の子どもたちにとって望ましいのではないかとということで、開隆堂を選定することにいたします。

続きまして、家庭分野になります。

これにつきましても、7月27日の審議におきまして、東書、教図、開隆堂の3者を選定の候補といたしました。こちらから1者を選定することになります。

こちらも、皆様から何かご質問などがございましたらお願いいたします。

特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、それ

から、前回の質疑応答を整理してみますと、家庭分野におきましては、課題探究的な学習活動の取扱い、そして、自分と家庭、家庭生活と地域との関わり合いにおける取扱い、そして、安全、衛生、防災などの取扱いなどにおいて教科書の特徴や違いがあったと思われます。

こういった観点を含めまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がよいのかということについてご意見をいただきたいと思います。

それでは、佐藤委員からお願いできますでしょうか。

○佐藤委員 家庭科も東書と開隆堂で迷いました。どちらもよいと思っているのですけれども、東書には、今の観点にもありました課題解決のツールや流れが明示されていて、そのツールが多く掲載されている特徴があると思います。

開隆堂のほうは、技術と同じように落ち着いた構成があるのですけれども、科学的な根拠がはっきり明示されている特徴があるということで、それぞれの長所が両者にあって、いずれもよいと感じました。

どちらかと問われれば、先ほど技術のほうで阿部委員から課題解決の流れについてご指摘がありましたが、私の目には、家庭科のほうで課題解決の流れが非常にはっきり目に映ったというか、読んでいて、頭の中に入ってきた印象がありました。ですので、課題探究型の学習に、より適した教科書という形で考えれば東書と考えております。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 すみません、意見が分かれたのですけれども、私は家庭科につきましては開隆堂とっております。

まず、調理方法についてですが、調理方法のQ&Aというコーナーがあって、例えば、ショウガ焼きの場合だと、「なぜショウガを入れるの」という問いに対して適切な答えが示されており、大人でも、確かにそうだと忘れていたことを思い出させてくれる一文があります。東書さんには、そういう点が見受けられなかったと思いました。

どうしてそういうふうにするのかという論理的な説明が非常に分かりやすく表現されているという点から、東書も非常によいと思ったのですが、どちらかを選ばなければいけないとなったときに、そこに大きな差があったことから開隆堂がよいとっております。

○長谷川教育長 石井委員、お願いします。

○石井委員 私も東書と開隆堂で非常に悩んだのですが、家庭科も開隆堂のほうがと思っています。

というのは、開隆堂の教科書から、子どもたちにとってすごく身近なことから問題を解決していく視点を全体的に感じました。例えば、調理の面でいくと、94ページのコンビニ弁当の写真を見て栄養バランスを考えるという点でしたり、自分の家庭生活と地域の関わりについてという部分においても開隆堂のほうがより優れていると思いました。

また、開隆堂には、より多様な人たちがいて社会が成り立っているという視点がすごく感じられました。というのは、LGBTについて取り上げているのですが、中学生になると自分の家族を客観的に見ることができるようになるのですが、すごく安らげる家族ばかりではない現状の中で、子どもの相談窓口を提示していたり、家族を支えるNPOがいることに触れているからです。あとは、家族生活をよりよくするために、ロールプレイングを通して、より豊かな家族生活を送る実践といますか、活動の場が載っています。中学生にとって、家族や食事、防災の面について生活と結構結びつけているのは開隆堂だと思い、より実践的に家庭生活を学べるという点で、私は開隆堂がよいと思っています。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私も開隆堂か東書かというところで、技術と同じように考えたわけですが、どちらかというと開隆堂を推したいと思っています。

例えば、調理実習において、なぜそういうことが起こるのかというQ&Aに根拠が明確に書かれておりまして、大体が調理などについてですが、自分自身が経験してきたところで、なぜそうなったかということもここで初めて知ったところが結構ありました。中学校を卒業して社会に出ると、レシピ本などを見る機会はいっぱいあると思うのですが、どうしてかという理屈を学ぶ機会はなかなか少ないのではないかと思います。ですから、中学校のときに、そういう根拠を示す教育を受けることは非常に有効ではないかというところでもあります。

それから、両者とも高齢者などとの関わり合いについて、どのように介助するかとか、歩行の介助、立ち上がりの支援などについて、図を出してきちんと説明していることは、非常に評価されます。それは両者ともそういうところがほぼ書かれており、大きな差がないと思いますので、二つともよい教科書だと思いますが、私としては、根拠のところを重視して開隆堂を選びたいと思いました。

○長谷川教育長 佐藤委員から東書というお話がございましたが、その中で、開隆堂は根拠をしっかりと明示しているところが優れている点ではないかとお

っしやられましたけれども、いかがでしょうか。

○佐藤委員 私も、冒頭で申し上げましたように、開隆堂のよいところは科学的な根拠が明示されている点でありまして、阿部委員と中野委員からのそこが長所であるというところについては賛成いたします。ですから、お三人が開隆堂を推されるのであれば、私もどちらもよいというところがありますので、特に異を唱えるものではありません。

○長谷川教育長 分かりました。ありがとうございます。

今、佐藤委員から、東書も非常にすばらしい教科書であるけれども、開隆堂のよい点もあるのではないかということで、お三人が開隆堂であればということでございました。

それでは、家庭分野につきましては開隆堂ということでよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、開隆堂を選定することにいたします。

続きまして、理科になります。準備をよろしくお願いいたします。

それでは、理科であります。

理科につきましては、7月27日の審議におきまして、対象となる東書、教出、啓林館の3者を選定の候補といたしましたので、ここから1者を選定いたします。

前回の審議を踏まえまして、各委員からさらにご質問などがございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、そして、前回の質疑応答を整理いたしますと、理科の場合については、課題探究的な学習活動の取扱いや自然災害の取扱いの観点において教科書の特徴、違いがあったように整理できると思います。

こういった観点を含めまして、札幌市の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいのかということについてご意見をいただきたいと思います。

それでは、阿部委員からお願いいたします。

○阿部委員 私は、啓林館と思っています。

まず、課題探究のところにおきましては、結果を話し合っ、新たな課題を見出す活動が掲載されているところと、あとは、前回もお話しさせていただきましたが、「部活ラボ」というコラム欄があっ、お料理のことや防災のこと、あとはマークの活用なども非常に分かりやすく表現していただいていると感じています。

また、自然災害につきましては、多数の写真を取り扱っていただいているところもほかの教科書会社と比較すると一つの特徴になっていると思います。

それから、自然災害につきまして、ほかの教科書には、みんなで話し合いましようというコーナーがあり、そこは重要な部分ではあると思うのですが、自然災害におきましては自らが判断すべきポイントがたくさんあっ、自分自身がどう行動したらよいかというところが非常に重要なポイントと思います。そう思ったときに、啓林館の教科書は自ら判断できるようにという誘導が非常にされていると感じております。

前回も質問させていただいたのですが、実際に実験できる場面とできない場面があると思うのですが、そういった意味でQRコードを多数用意していただき、QRコードから、この実験の場面に誘導するコーナーも用意されている点から啓林館がよいと思っております。

○長谷川教育長 石井委員、お願いいたします。

○石井委員 私も啓林館と思っています。

3者ですごく悩んだのですが、啓林館が一番特徴的でおもしろいと思ったのが科学コラムで、先ほど、阿部委員からもお話がありましたけれども、「○○ラボ」というものが細かいところで結構設定されています。これは、生徒の学習意欲を高めたり、日常的な事象と結びつけたコラムという点で、子どもたちの意欲や科学的リテラシーなどを育む効果があるのではないかと思います。

それから、自然災害の取扱いの部分で、これも阿部委員がおっしゃっていましたが、自ら判断する態度や能力は非常に大切なので、そういった面でも啓林館はよいのではないかと思います。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私も、前回申し上げたとおりで、かつ阿部委員と石井委員と同意見で、啓林館を推そうと思います。

理由としましては、今の2人の委員がおっしゃったことと大体同じ意見です

が、内容の豊富さや図版などを多彩に活用できることがあります。また、理科は実験を通さなければ知識が獲得できない点がありますが、中学校で全ての実験を実際にやるわけにはいかない状況を考えますと、QRコードの画像等で実験を確認できるところは非常に優れていると思います。

内容が豊富ですので、こなすのに指導が若干難しい点はあるかと思いますが、それでも、現在も啓林館の教科書が使われていることを考えますと、ハードルはそれほど高くないと考えます。私も啓林館を推すべきと考えています。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いします。

○佐藤委員 私は、教育出版と啓林館で迷いました。両者とも、課題探究の流れが明示されていて分かりやすいことが言えると思いますが、教育出版は、特に法則の押さえがしっかりしていて、章や節の要点も分かりやすく配置されているようにお見受けいたしました。

一方、啓林館につきましては、今、中野委員がおっしゃったことと全く同じですけれども、付加情報や発展的内容が多く、どちらかというレベルが高い印象でした。札幌市では、これまでも啓林館を扱ってこられたわけですけれども、このレベルの高い内容を使いこなせているのであれば、引き続き、啓林館でよいと思っております。

○長谷川教育長 それでは、皆様のご意見から判断いたしますと、理科については啓林館ということよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、理科につきましては、啓林館を選定することといたします。

それでは、美術について審議を行います。

美術につきましては、7月27日の審議におきまして、対象となる開隆堂、光村、日文の3者を選定の候補といたしましたので、この中から1者を選定することといたします。

各委員からご質問などがございましたら、お願いいたします。

いかがでしょうか。特に質問はよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、美術についてでありますけれども、前回の審議や小委員会委員長の報告、質疑応答等々を整理いたしますと、まず、課題探究的な学習活動の取扱い、表現と鑑賞を相互に関連させた学習活動の取扱い、小中一貫した学習活動の取扱い、豊かな人間性や社会性を育む学習活動の取扱い、こういった観点において教科書の特徴や違いがあるといった整理ができるのではないかと考えております。

こういった観点を含めまして、札幌市の子どもたちにとってどの教科書が望ましいかということにつきまして、皆様のご意見をいただきたいと思いますと考えております。

まず、石井委員からお願いできますか。

○石井委員 私は光村図書がよいのではないかと考えています。

まず、課題探究的な学習ということで、光村は、教科書の紙質の点でも子どもたちの意欲をかき立てる工夫をさせています。例えば、トレーシングペーパーを使って、子どもたちに活動させたり、和紙なども用いるなど、子どもたちが手を動かして、実際に鑑賞して美術を学べる工夫があります。これは、子どもたちが主体的に意欲をもって美術を学ぼうとする姿勢が培われるのではないかと考えました。

それから、光村は、鑑賞の点でも他者と比べて優れていると思います。ゴッホや浮世絵などは他者でも取り扱っているのですが、光村は2・3年生の24ページに、北斎からゴッホへということで、浮世絵やゴッホの絵だけではなく、日本と西洋の美術作品それぞれを取り上げて比較しているので、お互いにより影響を与えている、国際的な視点も培うことができると非常に好感をもちました。

また、絵巻物に関しては他者も扱っているのですが、光村の2・3年生の36ページには、絵巻物についてだけでなく、子どもたちに身近な漫画表現と絵巻物が非常に共通しているという点を取り上げています。いきなり絵巻物をがんと載せても興味をもたない子がいると思うのですが、自分たちが親しんでいる漫画と比較して、全く別のもの同士の共通項を見つける視点を美術から学ぶことができるのは光村図書の教科書のよい点だと思います、光村図書を推したいと思いました。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私は少数意見かと思いますが、日文がよろしいのではないかと考えます。これは、鑑賞という意味でいろいろな題材が多く、写真等も多く出てい

て芸術性が高い作品を選んでいらっしゃると思います。

日常生活のいろいろな題材を使って、自ら身近なところに美術的な価値を見出すことは各者とも全てやっていらっしゃるということですので、そこは大きな差はないと思いました。

光村は和紙を使うとか、トレーシングペーパーを使うことで、新しい基軸を出しておられて、それは非常によい試みだと思いますし、非常に評価できると思いますが、美術作品のいろいろな解説などについては非常に詳しく書いておられる国語に通じた光村かと思うのですが、美術作品については、作品そのもののチョイスを重んじたいと考えますと、日文のほうが少し優れているという印象をもちますので、日文を推したいと考えています。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 私は、開隆堂さんを推したいと思います。

3者が全部出たわけですがけれども、ここも各者とも様々な工夫がそれぞれに凝らされておりまして、本当に甲乙つけがたく、いずれもよい教科書だと感じました。

私が開隆堂とした視点としましては、開隆堂のテキストの見開きに、「学習のポイント」が効果的に配置されている点が目立ったということです。この「学習のポイント」というのは、ただ鑑賞するだけではなく、どんなことを考えたり話し合ったりすればよいかという道しるべになる発問というか、方向付けであります。

光村も鑑賞、表現のところでその節の方向付けをしていますし、日文からも学びの目標は出されているのですけれども、開隆堂も、見開きに、必ず「学習のポイント」が視覚的に見やすく効果的に示されている点が非常に特徴的で、そこに引かれています。言ってみれば、各章に配置されている作品群は、ただ単に眺めるのではなく、こういうことを考えながら作品を見ていけばよいというように、子どもたちに視点を与える役割を果たしているという点で開隆堂と判断いたしました。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私は、全ての教科書がすごく優れているので、非常に迷ったところであるのですけれども、その中でも札幌市の子どもたちにこの教科書を使ってもらえるとよいと思ったのは光村でした。

理由の一つとしましては、子どもたちにとって身近な題材を取り上げていただ

いている印象が3者の中で一番多かったということがあります。それから、ほかの教科書会社についているタイトルが駄目というわけではないのですが、光村はそれぞれのタイトルのつけ方にすごく共感できるといいますか、分かりやすく、そうだなと思いながら鑑賞に入っていけるタイトルになっており、そこは子どもたちにも分かりやすいのではないかと思います。

あとは、石井委員からもお話がありました。和紙を使っていたり、トレーシングペーパーを使うなど、大人の私たちにも触れる機会がほぼない中で唯一扱っており、肌で感じる体験ができるシーンを幾つか用意していただいていると思います。

また、表現と鑑賞がセットになっていて、それが非常に関連性のある取上げ方をしてくださっていると感じました。それから、前回ご質問させていただいたときに、光村は、ゲルニカのページが非常に特徴的でしたというお話をいただいたので、そういった意味でも一つ秀でていて感じています。あとは鑑賞について、非常にダイナミックな取上げ方をいただいていると感じましたので、総合的に見ますと光村がよいと思いました。

**○長谷川教育長** 3者に分かれたご意見ということでもあります。各者とも優れた点があるということで、皆さんからいろいろご意見がございました。

私から教えていただきたいのですけれども、今、委員から、学習活動の取扱いの中の表現と鑑賞についてのお話がありました。例えば、自画像の関係は、日文、開隆堂、光村それぞれが取り扱っておりますけれども、これは2・3年でやっているのですか。この部分の各者の特徴について言えるところがあれば教えていただければと思います。

**○森岡企画担当係長** 開隆堂につきましては、2・3年生の14ページに自分と向き合うという自画像のページがあります。

自画像についても、実態として札幌市の美術の授業でよく取り上げられる題材になっております。開隆堂は4ページ構成になっていまして、14ページの左下に自分の気持ちや心情を見つめ直して、自分らしい主題を見付けるということで、まず、テーマを見付けようという「学習のポイント」が示されております。

17ページの右側には技法が載っています。どんなふうに工夫して表したいことを表現するのかという表現方法についての「学習のポイント」が示されています。制作過程に合わせて二つの「学習のポイント」が示されていまして、これをヒントに子どもたちがテーマを設定したり、表現方法の工夫ができる内容になっております。

光村につきましても2・3年生になります。

44ページから、同じように4ページ構成になっております。

他者の教科書も同じように参考作品がたくさん並んでおり、そこから気付いたことを自分の表現に生かす紙面構成にはなっているのですが、光村は紙面構成的な特徴がありまして、左上に明確に「鑑賞」と示されており、まず様々な参考作品を見て、作者が自画像に込めた思いを想像してみるところからいろいろなことを感じ取る構成になっております。

そして、45ページの右下に「表現（発想、構想）」と示されていますが、実際にマッピングの手法を使ったり、スケッチブックを活用するなど、自分の何を表したいのかを考える方法について具体的に示しております。そして、次のページの「表現（みんなの工夫）」という部分には、2名の生徒がどういった制作過程を踏んで作品を完成させるのかということが具体的に載っています。

自分の表したいことは子どもがそれぞれに見付けるものなので、これに全く沿ってということではありませんけれども、示された2名の例をヒントとして活用しながら制作に取り組んでいくことができると思います。

そして、4ページ構成となっている題材のみですけれども、最後にまた「鑑賞」に戻ります。47ページの上に示されておりますが、自分が実際に制作した後で鑑賞に戻って、新たに気付くことはないかを確認する流れになっています。

次に、日文の3年下の8ページは、「今を生きる私へ」という題材になっています。同じように様々な参考作品が載っておりまして、左上に「造形的な視点」という吹き出しがあります。この作品を鑑賞するときに、どのような視点で見ると新たな形や色彩の特徴に気付くことができるかということで、その視点が示されております。

これもプロの作家の作品ではなくて、身近な生徒作品に吹き出しをつけているのですが、ここで気付いたことをこれから自分の作品にどのように生かしていけるかということを子どもたちが考えることができると思います。

また、右上には画家の十代の自画像ということで、プロの作家の身近な十代の頃の制作について少し触れている部分があります。

参考作品などを見ていると、どの者も様々な作品をバランスよく載せていると思いますが、日文につきましては、生徒作品についても完成度が比較的高く、様々なことを見て感じ取れる作品が載っていると思います。光村については、素朴で、子どもにとって身近に感じられる生徒作品も掲載されており、開隆堂につきましてはその中間といいますか、幅広い完成度のものが掲載されていると感じています。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

表現や鑑賞ということで、今のご説明にあったように、自画像を見るとか表現

することは、学校では割と取り扱われる題材ということですが。各教科書会社において特徴が若干見られたと思いますけれども、これまでの皆さんのご意見等々を踏まえまして、さらにご意見などがございましたらお願いいたします。

○佐藤委員 自画像で比べてみると、開隆堂のゴッホの自画像を何枚も出して、変遷の流れを押さえるというのは、なかなかおもしろいと思います。

○石井委員 私は、ここで見ても光村がよいと思っています。というのは、この単元は、自分と向き合ったり、自画像を描く点で自分を内省していく点があると思うのですが、光村は、絵を見てどうやって描くのかを学んで、それでは描きましょうというわけではなく、マッピングなどもしっかり使って、自分の考えや構想を文字やスケッチブックなどに集めて、内側からしっかりと自分と見つめ合って、それを美術的に表現していきます。私はそこがすごくよいのではないかと思います。

私も学生のときに実際に自画像を描いたりしたのですが、そのときは、作品を見て、いきなり自分の自画像を描きましょうと言われたので、どうやって表現してよいのか分かりませんでした。そういったときにマッピングみたいなものがあると、ただ顔を描くことではなく、背景をどういうものにするべきかということなど、子どもたちが頭の中で文字を考えることができるのではないかと思います。

その点でも、私は光村が優れているのではないかと思います。

○長谷川教育長 中野委員、いかがですか。

○中野委員 先ほど、私は日文を推したのですが、先ほどの説明で、日文は完成度が高く、芸術性がある程度高いものを選んでいるということで、生徒さんの作品や制作過程というよりは鑑賞に寄っている点があるということでした。また、開隆堂さんはその中間だというお話もありましたが、確かにそうだと思います。

日文は鑑賞に寄り過ぎているのではないかというご批判があるようですが、私はどうしても日文でなければいけないとは思ってなくて、では、ほかの2者ではどうかという開隆堂を選ぶべきだと考えまして、開隆堂に移してもよいです。

○佐藤委員 先ほど、ゴッホの自画像について触れましたけれども、これは光村にもありました。光村の29ページに、取扱いは小さいのですが、ゴッホの自画像の変遷が載っています。

○長谷川教育長 ほかに何かご質問などはありますか。

もう一点、質問します。

自画像の制作だけには関わらないのですけれども、子どもたちがものをつくる  
とか表現することに関して、今は、美術も含めて、学校の授業で長い時間がなか  
なか取れないことがあると思います。そういった意味で、開隆堂と光村、日文の  
それぞれの教科書はこういったところを工夫しているとか配慮しているという  
特徴があれば教えてください。

○森岡企画担当係長 各学校では、担当の教師が地域性や生徒の実態に合わせて、どの  
くらいの完成度でどのくらいの作品をつくるかということ調整しながら授業を行  
っています。教科書の活用の仕方によって大きな差にはつながらないかもしれ  
ませんが、紙面から客観的に受け取れるものとしては、先ほど申し上げたよう  
に、日文につきましては、参考とする作品の完成度が非常に高く、鑑賞する  
ときにいろいろなことに気付きますので、自分の表現を新しく追究していき  
たいという生徒が見たときは本当にわくわくして、参考になると思います。し  
かし、場合にもよりますけれども、そのレベルを目標にするならば、制作時間  
はそれに比例して少し多くかかる印象があります。

光村につきましては、先ほど申し上げたように、少し素朴な表現で、子ども  
たちにとってこのくらいなら自分でもできそうだと思うような生徒作品も含め  
て掲載されております。例えば、2・3年生の43ページに、修学旅行の思い出と  
いうことで、小さなはがき大の作品が掲載されていますけれども、比較的短時  
間でも取り組めると感じる作品の掲載がやや多い印象があります。

開隆堂につきましては、その中間といいますか、どちらにも活用できる幅  
広くバランスのよい掲載の仕方がされている印象があります。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

光村の42ページ、43ページに修学旅行の思い出というものがありますが、こ  
ういった作品もおもしろいと思います。

今、それぞれの教科書会社の特徴のご説明がありましたけれども、改めて、皆  
様のご意見はいかがでしょうか。

逆に、ご質問などでもよろしいので、お聞きいただければと思います。

○中野委員 先ほどの繰り返しになりますが、あえて順番をつけると、日文、  
開隆堂、光村の順番になります。絵画の完成度の高さに引かれますので、日  
文がよいのかと思いますけれども、3者にはどこが決定的に悪いというところ  
はあり

ませんので、どれを選ばれても、札幌市にとって悪いことはないと思います。

○長谷川教育長 分かりました。

ほかにいかがでしょうか。

今、開隆堂と光村ということですが、確かに、光村は、先ほどご説明があったように、市民意見がかなり多かったと思います。

○佐藤委員 そうでしたね。市民意見には表紙と裏表紙に関するご意見がありましたね。本当にどれもよくて、例えば、現場で教えていらっしゃる先生の使いやすい教科書という観点で、もしあればと思います。

○長谷川教育長 支障のない範囲でお答えいただければと思います。

○森岡企画担当係長 先ほどもありましたように、1年生は45時間ですが、2、3年生は年間35時間という限られた時間の中で、実際に扱う題材は1年間に五つか六つで、教科書の題材の中から選ぶ、もしくは組み合わせて、生徒や学校の実態に合わせて教師が考えながら実施することになっています。その視点から、題材を選択する幅が広く、自分の学校にフィットする題材が見つかる教科書は、どの学校でも扱いやすいと思いますし、その授業の中に取り上げやすいと思います。また、時間のことも実際はありますので、その範囲の中で取り上げやすい題材が掲載されているものも視点として一つあると思います。また、若い先生が増えていることからすると、説明が丁寧に書かれているほうが使いやすいという視点もあると思います。

○佐藤委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 なかなか難しいですね。

○佐藤委員 それと絡めて言うと、日文は、作品として完成度の一番高いものを扱っていて、光村は、どちらかというと生徒作品など身近なものを扱っていて、開隆堂はその中間であるということですね。

○森岡企画担当係長 はい、そうです。

○佐藤委員 先生によってはレベルの高い芸術作品を取り上げたい先生もいれば、身近な作品を取り上げたい先生もいるでしょうね。

○阿部委員 私が最初に光村がよいと思った理由は、身近な作品を取り扱っていただいていることで、美術が得意ではないお子さんに対しての配慮があるところと、家にあるものを使っても美術につながるというところです。そういう角度から考えて、光村が取り扱っている作品は素朴という言い方をされていましたが、確かにそうだと思いますし、子どもたちにとっても導入という意味で光村を選んだところがあります。

先ほどの説明や中野委員から日文は完成度が高いというお話を伺ったので、もう一度見てみると、確かに完成度が高いと思いました。表現の仕方や写真の撮り方などもあるかもしれないのですが、すごく魅力的というか、圧倒的という感じを改めて受けております。

札幌の子どもたちにとって最終的にどちらがよいかというところが判断材料になると思うと、私は日文に心が揺れているところが若干あります。

何と云うのでしょうか、身近なものだからこそ導入しやすいという意味では、光村が圧倒的と私は思ったのですけれども、より優れたものを見てもらうという意味で考えると、その中間が開隆堂というのであれば、中間を選ぶ理由が逆に見つからなくなってきました。そうであれば、完成度の高いものを子どもたちに見てもらうというのも一つの考え方かと思えます。

中野委員からいろいろな意見を言っていたのですけれども、見えてくるものが非常に素晴らしいと改めて感じており、ちょっと揺れております。

○石井委員 私は、光村がすごく好きなのです。

というのは、個人的に美術館などに行くことが結構好きだからということがあるので、鑑賞の仕方が具体的に書かれていて、限られた時間内で授業をするのであれば、鑑賞の仕方を示してくれたほうが授業がやりやすいと思います。また、子どもたちもいきなりばつと見せられると、どこを鑑賞してよいのか分からないので、そういった見方や感じ方を示してくれているほうが私はよいと思っています。

先ほども意見として言ったのですけれども、時間が限られているのであれば、ゴッホと北斎をつなげて考えるというように、全く別のものだけでも、美術としてつながりをもって取り扱うことによって、授業時間の短縮に若干なると思います。

作品数は少ないかもしれないのですが、光村の取上げ方には作品に対するリスペクトがあるとすごく感じます。また、教科書は他者に比べて小さいのに、作品の画像の取扱いが多く、これは鑑賞する際にすごく大事なことだと思っています。ですので、私は光村が好きです。

○長谷川教育長 いかがですか。

○中野委員 私は、光村は説明などがきちんと書かれていて非常によいと思うのですが、日本語や説明の文章を全部外して美術作品だけをピックアップすると、繰り返しになりますが、日文さんのほうがより鑑賞の学習に有効に活用できる作品が多いと思います。

光村はどちらかというところ、説明などについても、そもそもの国語の教科書が美術作品の中に入っていると感ずるところを若干もつものですから、美術となると日文がよいと思います。開隆堂も特に悪いところはないと思うのですが、順番にするとそうになってしまいます。

○長谷川教育長 確かに、鑑賞という点では、先ほど、阿部委員からもお話があったように、日文は、写真の取上げ方も含めて素晴らしいものがあると思います。先ほど来申し上げているように、美術には表現と鑑賞があり、自分で表現することも授業の中で取り扱わなければいけないところがあります。そういった意味からも、議論をもう少し進めていただければと思います。

光村にもそういった題材はありますし、授業の進め方で、子どもたちがこういった点について注意していけばよいということも書かれています。これは開隆堂もそうですが、表現するところについても、どの教科書がより優れているかということで、もう少し議論いただければと思います。

先ほど私が整理の中で申し上げた小中一貫の関係も、そういった形で見たいと思います。

小中一貫の関係で各教科書会社の特徴的なところがあれば、改めてお話をさせていただきませんか。

○森岡企画担当係長 小中一貫の視点については、主に小学校と中学校のつながりになる1年生の最初のページの導入の取扱い方に3者それぞれに特徴があります。

開隆堂の1年生につきましては見開きになっておりまして、開いてすぐ右側の4ページに、図画工作から美術へのつながりを端的に説明しております。

めくりますと、学びの地図ということで、中学校3年間の学習の内容を地図として表わして、視覚的に認識や理解しやすい工夫がされています。

そして、特徴的なのが光村で1年生の6ページです。

「美術って何だろう？」となっておりますが、図画工作科と美術のつながりを図と文章で説明しており、その右側に、絵を描くのが苦手な子を対象とした部分

があります。それから、中学校に入って改めて専門的に学ぶ鑑賞について、作品をどのように見ればよいのかという説明があります。そして、次のページでも、教科書やスケッチブックの活用の仕方を文章で具体的に説明している形になっています。

日文につきましては1年生の6ページになりますけれども、開隆堂と同じように、参考作品を示しながら図画工作と美術のつながりが視覚的に分かるようになっております。

開隆堂につきましては、地図ということ全体像が見える形になっておりますが、日文につきましては、どんどん発展していく学習の様子分かる形になっております。

3者それぞれに特徴がありますが、光村の示し方は特に特徴があると思います。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいま、小中一貫の観点からの特徴ということでご説明をいただきましたが、こういった点も含めて、改めて、皆さんからご意見をいただければと思います。

いかがでしょうか。

○佐藤委員 見れば見るほど迷いますね。

○長谷川教育長 迷いますね。

○阿部委員 今、小学校からの導入部分のご説明をいただいたのですが、私の印象としては、日文が特徴的という印象を受けました。特に1年生から3年生までの流れを非常に分かりやすく表現していただいている、3年間の成長地図というところは、作品を併せながらとても分かりやすくなっている印象を受けました。

光村に関しても、イラストを使いながら分かりやすく表現してくださっていると思うのですが、小学生寄りの表現が少し多いと感じました。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○佐藤委員 確かに、日文は、委員のご指摘に沿って見ていくと、作品のレベルが非常に高い印象がありますね。

○長谷川教育長 石井委員、いかがですか。

○石井委員 私の個人的な趣味かもしれないのですが、光村は、小中の姿絵のところを見ても、小学校で図工が苦手だった子に対する配慮を感じるのですが、そういったところがすごく好きな点です。

日文は3冊あるということで、今まで子どもたちの負担になるのではないかと、思っただろうかと思っただけなのですが、改めて見てみると、作品の取上げ方がおもしろいと思います。絵巻物のところも漫画のように吹き出しをつけて取り上げていて、子どもたちが身近に感じることができると思いました。

それから、巻末にある学びを支える資料というところが非常におもしろく、いろいろな技法なども載っていますし、仏像に関していろいろな種類が載っていて、子どもたちが実際に鑑賞するときに非常に役立つのではないかと、思っ、ちょっと心が動いています。

○長谷川教育長 すみません、1点ですが、日文の1年生の58ページに、デザインの関係だと思いますが、「発想・構想の手だて」というところがあります。この上にマッピングとありますけれども、これは先ほど、光村でも取り上げていた絵の描き方と同じような考え方ですか。

○森岡企画担当係長 はい、そうです。

これは、課題探究の視点でいくと非常に特徴的なページだと思うのですが、日文では、58ページの上にマッピングやスケッチブックにアイデアスケッチする仕方などを示しています。また、その下に1人のアーティストの発想、構想を膨らませる考え方についても説明されています。巻末資料ということで、必要に応じて活用できるページになっています。

これと同じようなつくりになっているのが、光村の2・3年生の76ページにあります。発想を広げるというのですが、こちらもマッピングですとか9マスの表を活用したり、話合いの仕方などについても細かく説明されています。

○長谷川教育長 先ほどご説明があった、授業で取り扱う題材といたしますか、教材の選択肢の多さというところでは、光村が多いという印象でしょうか。

○森岡企画担当係長 選ぶ範囲が広いという意味では、掲載する題材数がページ数に比例して変わってくるので、ページ数が3者の中で一番少ない光村よりも、ページ数の多い開隆堂や日文のほうが題材の種類が多くあります。

○石井委員 豊かな人間性や社会性を育む学習の取扱いで、3者の特徴についてもう一度説明していただいてもよろしいでしょうか。

○森岡企画担当係長 豊かな人間性や社会性の観点ですけれども、美術科の目標として、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するということが、それから、心豊かな生活を創造していく態度を養うということがありまして、この視点は非常に重要と考えております。

開隆堂につきましては、2・3年生の教科書の後半に、まとめという鑑賞のページが連続して掲載されております。これは他者と比べて非常に特徴的で、絵や彫刻、デザイン、工芸などとは別に92ページからスタートするのですが、東日本大震災を経験した中・高生の取組やゲルニカもここに含まれますし、後半にはリノベーションなども取り上げて、特集ページのように固まりで掲載されております。3年間の美術の集大成として、美術と社会のつながりを力強く伝えることができると思います。

光村につきましては一つの題材を取り上げておりまして、2・3年生の56ページですが、メッセージを伝えるポスターの題材ということで、非常に幅広いテーマのポスターが参考作品として掲載されております。

4ページ構成になっていますが、環境問題や平和、復興支援、マナーに関すること、そして、59ページにはLGBTなども取り上げられております。様々な価値観や考え方に気付いたり、自分の思いを美術を通して伝えることを学ぶ題材になっております。

日文につきましては、2・3年生の下の14ページですけれども、仲間との交流の中からということで、共同制作を取り上げた題材があります。

共同制作については、他者にも巻末資料として取上げられているのですが、ここでは一つの題材として取り上げて、美術の活動が学校の中で役立ったり、制作の過程で学び合うことの大切さを学ぶことができる内容になっております。

それぞれ特徴的なところを説明させていただきましたが、開隆堂につきましては、特集ページのように固めて掲載するのは非常に特徴的で、このページだけではなく、中間に「日本らしさ」という特集のページもあります。

○石井委員 ありがとうございます。

もう一つ質問したいのですが、共同制作を行う時間は実際にあるのでしょうか。

○森岡企画担当係長 これは小委員会でも話題になりまして、子どもたちが協

力して学び合うことは大事ですし、取り組みたいと思う題材であるのですが、デザインなど、実際にアイデアを出すところから完成までを授業の中で行うとなると、かなりの時数が必要になります。ですので、これを授業として取り上げるとすれば、制作過程の一部としてアイデアスケッチまで出して、あとは学校行事で行うなど、授業でフルに扱うというより、一部を扱う形になるのではないかとということが話題になりました。

○石井委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 いかがでしょうか。

○石井委員 今のお話を聞いて、私はやはり光村と思いました。

今の子どもたちは、写真や映像で美術を表現するほうがより身近だと思っているのですが、光村は、2・3年生の巻末のところに、映像メディアの活用ということで、各者より結構詳しく掲載しています。そういった点が光村の特徴で、子どもたちにとって身近というか実践的で、美術を使って実生活に生かしていく点では優れているのではないかと思ったのです。

今も質問させていただきましたけれども、美術を通して自分の思いを伝えることはすごく大事で、学んだことを生かして自分の考えを伝えていくことは非常に大切なことなので、そういった点でも私は光村さんだと思っています。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○阿部委員 私は、最初は光村がよいと申し上げたのですが、作品の完成度の高さを見ますと日文さんが圧倒的だと感じている部分がありますので、鑑賞という領域においては日文が圧倒的だと感じております。

もう一つ、表現というところですが、冒頭で鑑賞と表現がセットになっているのが光村ではないかという言い方をしたのですが、日文でも表現と鑑賞がセットになっていると感じますし、ダイナミックな作品を鑑賞するからこそ、それが表現にもつながっていいと思いました。そういう意味でも、最初の意見と変わってしまうのですが、日文がよいと思っています。

それから、小学校からの引継ぎや関連性の角度から見ても、先ほどもお話ししたのですが、3年間でどういうステップアップをしていくのかということが一覧で表現されていて、そこに作品なども載っている意味からも、総合的に判断すると日文だと思っています。

○長谷川教育長 佐藤委員、いかがでしょうか。

○佐藤委員 私も初めは開隆堂を発問という観点から見たわけですがけれども、美術は鑑賞と表現の両輪ということでありまして、鑑賞という形を取り上げるのであれば、日文は一步先んじていると思います。

一例ではありますけれども、例えば、開隆堂の1年生の表紙に書いてある高村光太郎の「白文鳥」は、日文では2・3年上の15ページに載っています。開隆堂は、裏表紙にもありますけれども、別な角度から見せていないようで同じ向きです。

しかし、日文のほうは、左側の「白文鳥」の正面から見たらこんな表情という形で、鑑賞につながる材料をより多く提示してくれています。その意味合いにおいて、いろいろなご指摘も拝聴しながら、今は日文がよろしいのではないかと考えています。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

○石井委員 私はどうしても光村というわけではありません。ほかの委員のお話も聞いて、改めて見てみると、鑑賞の領域においては日文が優れているのではないかと思いますし、技法についてもすごく詳細に載っていて、その点もすごく優れていると思っています。

私の懸念材料としては、日文は3冊あるということもそうですが、光村は鑑賞の仕方をすごく詳細に載せていて、美術が苦手な子に対しての配慮や教科書の大きさについても配慮を感じたので、よいと思ったのです。

日文に異論はありません。鑑賞の面ですごく優れていると思います。

○長谷川教育長 今、石井委員からお話がありましたように、光村も含めて非常によい教科書でありますけれども、今までの各委員からのお話からいきますと、美術については日文がよろしいのではないかとということでもよろしいでしょうか。

○中野委員 私の意見よりもより詳しく各委員にご説明いただいたので、私も異論はありません。

○長谷川教育長 それでは、美術につきましては、日文を選定することといたします。

ここで、約1時間休憩を取りたいと思います。再開は1時40分からスタートし

たいと思います。

どうもありがとうございました。

[ 休 憩 ]

○長谷川教育長 それでは審議を再開いたします。

次は、数学について審議を行います。

数学につきましても、7月27日の審議におきまして、対象となる学図、教出、啓林館、数研の4者を選定の候補といたしましたので、ここから1者を決定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、さらに委員の皆様からご質問などがございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか、特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 前回の審議における小委員会委員長の報告、そして、質疑応答の内容を整理いたしますと、数学的活動のページ、あるいはそれ以外のページにおける課題探究的な学習活動の取扱いのところで、それぞれの教科書の特徴や違いがあるように思います。

これらの観点を含めまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということについて、各委員からご意見をいただきたいと思います。

それでは、まず、中野委員からお願いできますでしょうか。

○中野委員 四つの発行者の教科書を見比べますと、おおむね同じくらいの完成度ということで、特にどの発行者が抜きんでいてというほどの差はないと思いました。

現在、札幌市においては、4年前から学校図書をお使いになっていることも踏まえて大きな差はないということと、学校図書は、学習におけるいろいろなヒントや図表を駆使して、いかに分かりやすく導入するかというところで、いろいろと工夫されているところがあります。

全体的に大きな差がない中で、4年前から新しく取り入れて次第に使い慣れてきた経緯を考えると、今他者に替えるよりは学校図書を継続すべきではないかと思いますので、学校図書を推したいと思います。

○長谷川教育長 分かりました。

佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 私は、学校図書と教育出版、啓林館の3者で迷いました。学校図書は個人間、個人内とも、個人の思考の中での対話的なスタイルをよく考えられて強調されている印象がありました。

教育出版は、学んできたことを振り返って押さえる箇所が多くある点が特徴的だと思いました。

それから、啓林館は落ち着いた配色と構成で要点が把握しやすい点に特徴があったと感じております。

この3者はいずれも甲乙つけがたく感じたのですが、ただいま中野委員がおっしゃったように、札幌市では学図に替わって間もないことがありますので、引き続き、学校図書を使って、この教科書のよさを一層活用してみてもどうかと思っております。

以上です。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私は、学校図書と教育出版、啓林館の3者を比較検討させていただきまして、その中で特に優れていると感じたのは学校図書です。

一つの観点として、小中一貫した学習活動の取扱いの角度から見たときに、「QUESTION」というところが非常に分かりやすく表現されていて、問いを解決するために必要な見方、考え方を示してくださっているところが特徴的だと思いました。

それから、課題探究のところにおきましても、同じように「QUESTION」を使っているのですが、見方・考え方や目標が一連の流れで数多く示されています。また、「どんなことがあったかな」ということを表現として出させていただいて、「次の課題へ!」というところへ流れるのですが、それが非常に分かりやすいと感じました。

そういったことが優れているところから、学校図書が一番よいのではないかと考えています。

教育出版がよいと思うところは、数学が苦手なお子さんへの配慮という意味で、戻って確認するところが右側に表現されています。これには、今、自分がやっているところで手間取ったり、迷ったときに、このページに戻って確認したら分かりやすいというガイドのような役割があります。ここは、数学が苦手なお子さんへの配慮が非常にされていて、関心を寄せたところですが、総合的に見ますと、今は学校図書だと思っております。

○長谷川教育長 石井委員、お願いします。

○石井委員 私も小中一貫した学習活動においても、課題探究的な学習活動についても、学校図書がよいと考えています。

まず、小中一貫した学習活動の取扱いでは、目次にもありますけれども、小学校で学んだことに触れていること、課題探究のところでは、導入部分や要所要所に「どんなことがわかったかな」とか「次の課題へ！」という点があり、子どもたちが自ら学習に臨む上でよいのではないかと思いました。

また、「深めよう」や「ふりかえり」というページがあるのですが、それでも、「深めよう」では「問題づくりにチャレンジ」などは発展的で、子どもたちにとって非常に身近な題材を取り扱っているところがあります。「ふりかえり」は数学が苦手な子どもにとっても算数から数学へというところなので、小学校で学んだことをさらに中学校の数学に生かしていける視点が見えるところが学校図書はよいと思いました。

○長谷川教育長 ただいまの皆様のご意見から判断いたしますと、数学につきましては、学校図書ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、学校図書を選定することにいたします。

次に、外国語（英語）になります。準備をお願いいたします。

それでは、外国語（英語）について審議を行います。

英語については、7月29日の審議におきまして、東書、開隆堂、光村の3者を選定の候補といたしました。3者の中から1者を選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問などがございましたらお願いいたします。

○阿部委員 前回は質問させていただきまして、開隆堂に「Our Project」というような、自分の考えを適切に表現、プレゼンテーションするコーナーがありまして、私の質問としましては、札幌市内の中学生がこういうプロジェクト、「記者会見を開こう」とか、少しハードルが高いのではという質問をさせていただいたときに、札幌市としては求めている技術であるという回答をいただいたのですが、例えば、プレゼンテーションについて、ほかの東書や光村に同様のページがあるとしたら、どういう構成なのかということをお教えいただ

きたいと思います。

○上野研修担当係長 開隆堂の「Our Project」につきましては、これまで培ってきた、聞く、話す、読む、書くの四つの技能を駆使して一つの課題に向けて四つの技能を関連付けながら課題を解決していく学習内容になっております。

この「Our Project」のような学習内容は、東書の「ステージアクティビティー」、光村で言えば、「ユー・キャン・ドゥー・イット」という部分で同じような学習内容がありますが、開隆堂におきましては、例えば、38ページで「メモの取り方を学ぼう」ということで、この「Our Project」について、しっかりと準備した上で大きな課題に取り組む構成になっております。

東書におきましても、「ミニアクティビティー」、「ユニットアクティビティー」など、段階を踏んで、「ステージアクティビティー」に向かうなど、ほかの者においても同じような準備段階はあります。

また、プレゼンテーションにおきましては、各者、スピーチという形で同じような学習内容が設定されております。

○阿部委員 ということは、開隆堂だけがプレゼンテーションについて取り上げているわけではなく、ほかの教科書会社でも同じように取り上げられているという理解でよろしいですか。

○上野研修担当係長 はい。

例えば、東書の2年生の96ページ、97ページをご覧ください。

ここでも、クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表する形で、コラムでポスターセッションが紹介されるなど、各者がこのようにプレゼンテーションについても工夫されているところです。

○阿部委員 そのプレゼンテーションのレベルという意味では、どのように評価したらよろしいですか。

○上野研修担当係長 プレゼンテーションといいますと、中学生の発表という形でプレゼンテーションという英語を使っていると理解していただければと思うのですが、新学習指導要領におきましては、話すことの領域が、やり取りのインタラクションとプレゼンテーションの二つの領域に分かれております。このプレゼンテーションは主にスピーチの活動や、共同して何かを発表するという活動もあります。

○阿部委員 レベル感につきましては、特に開隆堂の「Our Project」がレベルが高いということではないのですか。

○上野研修担当係長 「Our Project」につきましては、課題探究の部分で特徴的なのは、やり取りや、言語活動を通して自分の考えを整理することが「Our Project」の中で一貫して行われているところです。

また、振り返りの際に、自分の活動だけではなく、他者の活動も見て、よいところを理由をつけてきちんと振り返り、次の学習に生かす特徴があります。

○長谷川教育長 プレゼンの内容自体にレベル感があるように思いますが、その辺はどうでしょうか。そうではないのですか。中身は違っていたとしても、子どもたちに求める能力などについて差がないという認識でしょうか。

○上野研修担当係長 「Our Project」につきましては、4ページで構成されているところが多いので、ボリューム感是他者に比べてあると思いますが、難易度としましては、きちんとステップや日頃のやり取りの活動を通して行うものですので、取り組むことが可能な内容となります。

○阿部委員 分かりました。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、そして、ただいまの質疑を含めまして、質疑の内容を整理してみますと、英語の場合は、小中一貫した学習活動の取扱い、今、若干話題になりました課題探究的な学習活動の観点において、特徴や違いがあったように思います。

こういった観点を含めまして、こういった教科書がより望ましいのか、各委員からご意見をいただきたいと思えます。

まず、佐藤委員からお願いできますか。

○佐藤委員 私は、東書から開隆堂かというところで検討いたしました。

両者とも学年内、学年間における4技能のバランスに優れていると感じたからであります。それから、この両者は小学校とのつながりもよいと感じました。

あえて違いを挙げるとすれば、東書のほうが大判な分、情報量が多い印象を受けております。多彩な情報提示は東書のほうに多くて、もしかすると、つくりのイメージかもしれませんが、東書のほうが英語のおもしろさ、興味関心といったものをより喚起しやすいつくりになっているのではないかと感じました。

この点から、どちらかと言われれば東書を推したいと思います。

以上です。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私も佐藤委員と同じように、東書と開隆堂さんの2者で比較検討させていただきまして、小中一貫した学習の取扱いにおきましては、両者とも優れていると感じております。

課題探究的な学習活動の取扱いにつきましては、先ほど、「Our Project」のことで、開隆堂のご質問をさせていただいて、それが東書にもきちんと表現されているということでしたので、どうしても「Our Project」の「記者会見を開こう」などの内容がすごくよいと思う反面、中学生には難しいと感じてしまうところがありまして、札幌市の中学生の中には、こういう能力は必要であると個人的にはすごく思いますし、大人になってからのプレゼンテーションに生かせると非常に強く感じるころはあるのですけれども、佐藤委員のお話にもありましたように、判の大きさや全体的なページ構成という意味では、東書のほうが非常に分かりやすく表現されていて、文字のポイント数も若干大きいと感じるところもありますので、非常に迷うところではあるのですけれども、どちらかを選ばなければいけないので、今の時点では東書のほうがよいと思っています。

ただ、開隆堂の「Our Project」につきましては、ほかの委員の皆さんのお話も聞いてみたいと思っています。

○長谷川教育長 分かりました。

石井委員、お願いいたします。

○石井委員 私は東京書籍がよいのではないかと考えています。

小中一貫した学習の取扱いでは、東京書籍も開隆堂もそんなに変わらないと思ったのですけれども、現在、小学校の英語の教科書で東京書籍を使っているということで、そういった意味で、子どもたちが見慣れている紙面である点でもよいと思っています。

課題探究的な活動の取扱いのところ、東京書籍はミニアクティビティーだ

ったり、ユニットアクティビティーで段階的学習の定着を図りながらステージアクティビティーでやり取りをする活動がある点で、徐々に段階を踏んでいって、英語が苦手な子でも話すことができるようになるのではないかと思いますし、全体的に東京書籍さんは、学び方コーナーや小さいコラムもあって、例えば、2年生の94ページのポイント・オブ・ビューでは、コミュニケーションについて書かれているコラムがあって、これは、英語以外でもすごく役立つコラムが書かれています。私はすごく好感を持ちました。

学び方コーナーも1年生のときでは辞書の使い方という点や、小学校のときは辞書を使わないと採択のときに聞いたと思うのですがけれども、中学生になると辞書は必要になるので、そういった点でも英語が苦手な子たちが後れることなく、英語を使いこなせることができるようになるのではという点で、東京書籍が優れていると思っています。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私も東京書籍と開隆堂のどちらかということでも考えました。東京書籍のほうは情報量が多く内容がやや多いということと、今後、実際にいろいろな英語を使って会話するとか、実用するとき、レッツトークやレッツライトなどのやってみようコーナーの例示は、いかにも実生活で使うチャンスがあるだろうというところが豊富に載っていて、非常に評価されると思いました。大判ということがありまして、盛り込む量が多くできたところがそこに反映されるのかという印象です。

また、開隆堂も非常に優れていると思っておりますが、「Our Project」でいろいろと高度な内容ができるということになっています。ただ、指導するほうが若干大変かと思えます。担当する教員によって多少ばらつくといえますか、負荷がちょっとかかる可能性がありますので、非常に使い勝手のよい場合もあるし、そうではない場合もあるということをお考えますと、東京書籍は多彩な色の図形や英字をいろいろ載せているということで、そちらのほうを取りたいと思います。札幌市においては東京書籍を選んだほうがよろしいだろうという結論です。

○長谷川教育長 阿部委員、いかがですか。

○阿部委員 今、中野委員がおっしゃったとおりだと思います。「Our Project」が非常に優れていてよいと思う反面、担当する先生のレベルによって大変な部分があると思います。

○長谷川教育長 それでは、ただいまの皆様のご意見を判断いたしますと、英語につきましては、東京書籍ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、東京書籍を選定することといたします。

それでは、次は音楽になります。準備をお願いいたします。

それでは、音楽です。

音楽一般と器楽合奏について、審議いたします。

初めに、音楽一般からですが、7月29日の審議におきまして、教出、教芸の2者を選定の候補といたしました。ここから1者を選定したいと思います。

それでは、前回の審議などを踏まえまして、各委員からご質問などがございましたらお願いいたします。

特にご質問はよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長のご報告、そして、せんだっての質疑応答などの内容を整理いたしますと、音楽一般につきましては、表現及び鑑賞領域における課題探究的な学習の取扱いや国際性を育む学習活動の取扱い、これらの観点について各教科書の違い、特徴があったように思います。

こういった観点を中心に札幌の子どもたちにとってどのような教科書がよいのかということについてご意見をいただきたいと思います。

それではまず、阿部委員からお願いいたします。

○阿部委員 教出と教芸の2者を拝見させていただいて、どちらも優れていますが、非常に迷うところがあるのですけれども、どちらかという私は教出と思っております。

まず、1点目の国際性を育む学習活動の取扱いにおいてですけれども、日本とアジアの声による様々な表現というところが日本とアジアの暮らしの中で生まれた音楽の共通点や相違点を理解しながら多様性について学習することができる内容になっていると思えました。

あとは課題探究につきましては、「アクティブ」というコーナーがあって、そこで話し合おうというコーナーがあるのです。音楽を通して、多様性といいます

か、友人がどういうふうにか考えているか話し合う場面が設けられているのは、一つの課題探究という意味におきましては、特徴的と感じました。

それから、最後の鑑賞領域につきましては、前回は説明をしていただいたのですが、何が同じで何が違うという表現が比較しながら鑑賞ができるという角度になっているところから、音楽が得意な子とそうではない子がいたときに、どちらにおいても、何が同じで何が違うというのは、表現としておもしろいところがありましたので、全体的な表現も非常にすばらしいところがあると思うのですが、どちらかを選ばなくてはいけないと考えますと、今お話しさせていただいたように、教出のほうの一つ抜きんでている印象をもちましたので、私は教出がよいと思っております。

○長谷川教育長 石井委員、お願いいたします。

○石井委員 私は、教育芸術社がよいのではないかと考えています。

理由としましては、課題探究の部分で、私は教芸の深めよう音楽のページが結構好きで、例えば、ビバルディの「四季」を両者とも載せているのですが、その取上げ方が、私は音楽にとどまらない広げ方を教芸はしていると思いました。

また、イタリアの気候と四季ということで、ほかの国の「四季」も見てみるなど、地理的なつながりもありますし、深めよう音楽の鑑賞のところにも必ず載っているのですが、プラスアルファで「そのころ日本では」で、外国の曲ですが、その頃の日本はどのような時代だったのかということところがプラスアルファで、46ページの下の方に載っています。それは、「魔王」もそうですけれども、鑑賞の全てに載っていて、音楽を深めるときに、その国の文化や考え方は非常に大切だと思っているのです。

そういった意味でも、教芸の教科書は別の面から音楽を鑑賞してみる、また、自分の国の日本とつなげて音楽を考えてみるところで、鑑賞の面で非常に優れているのではないかと思います。

また、課題探究の面で言うと、教芸社は、著作権やSDGsに関しても2・3年生の下でしっかりと手厚く取り扱っています、社会と音楽がどういう結びつきをしているのかという視点が3年間を通して非常に感じられると思いました。

いろいろな郷土のお祭りに使っている音楽は両者とも載っていたのですが、教育芸術社のほうが非常に細かいといいますか、お祭りや音楽は切り離せないものだと思うのですが、文化の中で音楽がどういうふうに使われているのかという、より実践的な鑑賞の仕方や音楽の使い方を学ぶことができるのは、私は教芸の教科書だと思いました。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 教芸と教出はほぼイーブンで、どちらがよいとも悪いとも言えない状況だと思ひまして、非常に困ったというのが正直なところです。

今、石井委員の意見を伺ひまして、教芸のほうがよいのかなと気持ちが多少動いたところです。何とも言えませんが、確かにいろいろな社会とのつながりなども吸収すべき論点ではあると思ひますので、私も教芸を推させていただきますと思ひます。

○長谷川教育長 分かりました。ありがとうございます。

佐藤委員、いかがでしょうか。

○佐藤委員 私も中野委員と似ていまして、甲乙つけがたいという印象です。阿部委員、石井委員がそれぞれにおっしゃっていただいたように、教出の特徴は、比較、対比を中心にした構成というところですね。私はここに非常におもしろみを感じておりました。

それから、石井委員がおっしゃった教芸の特徴は、言ってみれば、ヒントを手がかりに深めていくというか、さらにほかの歴史などとも絡めて、その曲について理解を深めて題材を深掘りしていくところが教芸の特徴かと思ひました。

これでどっちということは非常に言いにくいのですが、私の印象としては、例えば、例に挙げていただいたビバルディの「春」ですと、ビバルディの「春」は、音楽の好きな子どもは知っているけれども、「秋」をちゃんと聞いたことがある人はあまりいないだろうと思ひます。どちらかといえば、対比のほうにおもしろみを感じる、ほんの少しの違いではありますけれども、私としては、どちらかといえば教出という結論です。

○長谷川教育長 教出と教芸それぞれによいところがあるということでありませう。

先ほど、石井委員から教芸の社会とのつながり、社会と音楽ということで特徴的なところが見られるということでもございました。例えば、教育出版で社会とのつながりを意識したところは特にありますか。何かあれば、教えていただければと思ひます。

○河合研修担当係長 教出には、2・3年生の下の66ページに、アウトリーチなどのことが掲載されておられます。

○長谷川教育長 もう一度お願いします。

○河合研修担当係長 教出のほうは、2・3年の下の66ページに、全面にわたっての掲載があり、それに対して、教芸のほうは、3年間にわたって社会とのつながりが感じられるページが配列されております。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ほかに、ご質問も含めてご意見などがございましたらお願いいたします。  
いかがでしょうか。

○阿部委員 北海道全体ということでもよいのですけれども、2者の比較ということで、北海道とかかわりのある内容の取上げ方だったり、資料の取扱いの仕方などで2者を比較したときにどうかということをお伺いできればと思います。

○河合研修担当係長 特に札幌市という意味につきましては、この間もご説明させていただきましたけれども、コンサートホールK i t a r aの写真や時計台の歌唱曲に時計台の写真が載っていたりしています。

それから、北海道という意味では、ソーラン節の学習が多く、学校で行われていると思うのですけれども、教科書は教芸が1年生の60ページ、教出が1年生の28ページに掲載されているのですけれども、これについては、前回、道庁委員の質問にもありましたので、このソーラン節を例に説明させていただきたいと思います。例えば、ソーラン節の教材を課題探究的な学習として取り扱う場合、どのように歌いたいかという思いをもつことが大切になるのですけれども、この教材では、民謡が人々の暮らしの中でどのような価値を持ち、どのような役割を果たしてきたのかということも併せて学ぶこととなります。

そうした面から捉えたときに、教芸の60ページでは、図譜や演奏者からのアドバイスがあることによって、生徒にとって大変歌いやすい取扱いがなされていると思います。

一方で、教出のほうですけれども、ソーラン節のページの隣に「かりぼし切歌」という歌が掲載されております。ソーラン節は一・二、一・二と動作をするメンバー全員でそろえる必要がある仕事歌ですけれども、一方で、「かりぼし切歌」はカヤを刈るときに歌われる曲で、言葉を長く伸ばして朗々と歌う特徴があります。

この2曲を比較することで、拍の違いが明確になります。このように、歌うこともさることながら、同じ仕事歌でも仕事の種類によって民謡の特徴が異なっ

て、民謡を歌わせる目的を理解することが可能なページ構成となっております。  
この学習を通して、音楽の共通性や固有性を学び、深めることができますと思います。

○長谷川教育長 ありがとうございます。  
ほかにいかがでしょうか。

○阿部委員 ありがとうございます。

○石井委員 いろいろな曲を比較検討するというのが教育出版のおもしろさだと思うのですが、私は趣味で音楽をやることもあって、その曲について深めていって、世界を広げてほしいと個人的に思うのです。

例えば、教育出版は「春」と「秋」で聞き比べているのですが、自分が中学生の頃を思い出すと、「春」はすごく長い曲なので、全部聞けなかったことがあったのです。ですので、そこで、さらに「秋」を聞くことができるのか、そして、「秋」についての構成を検討することができるのかというところに非常に疑問をもっています。

しかし、教芸でも「春」「夏」「秋」にCDマークがついているので、恐らく聞こうと思えば聞くことができるのではないかと思いますし、ビバルディの「四季」の「春」のおもしろさは1曲の中で曲相が徐々に変化していくところなので、1曲を深めていって、その1曲から世界が広がるおもしろさ、子どもたちが課題をもって曲を深めていけるおもしろさということでは教芸と思っています。

3年間を通して音楽が社会にどういうふうにつながっているのかという視点を子どもたちにもってほしいと思いますし、そういった点で、私は教芸がよいのではないかと考えています。

○長谷川教育長 今、石井委員からご指摘があったように、教出は「春」と「秋」を比較した形で取り上げているところですが、長い曲なので、授業がなかなか難しいのではという疑問があったということですが、その辺は実際に授業でどんな形で使えそうなのか、使うとしたらどういうふうにやっていくのか、今、この時点で分かることがあれば教えていただければと思います。

○河合研修担当係長 どちらの教科書を使ったとしても、聴かせ方に関わっては、「春」という曲は、ソネットという詩に対してビバルディがどういうふうに表示したのかということをお聞き取りしていくことがメインになりますので、全体を通して聴く場面もあれば、細切れに聴いていく場面もあると思います。ですの

で、そのときに子どもに感じ取ってほしいものに合わせた曲の長さになると思います。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○阿部委員 この2者の大きな違いといいますか、特徴としては、いろいろな観点の見方があると思うのですけれども、一番特徴的なことは、鑑賞領域において、どういうふうに深めるかというところかと思います。

例えば、教出は、先ほど佐藤委員や私からお話しさせていただいたように、比較検討しながらその曲の特徴を深めていくやり方で、教芸のほうは、1曲に対してより深めていこうという違いでよろしいですか。

○河合研修担当係長 そうだと思います。

○阿部委員 そこが大きな違いですね。

それ以外の観点において、物凄く2者の違いがあるかということ、どうなのでしょう。

○河合研修担当係長 手法がちょっと違うと感じるところとして、「魔王」のページについて説明させていただきたいと思います。

教出が1年生の44ページで、教芸が48ページになります。

このページを見たら明らかにページ構成が違うことがお分かりになると思うのですけれども、教出は、全面に歌詞や魔王をイメージした絵、それから、ハンノキの木などが掲載されており、イメージを持って「魔王」のあらすじをつかんで、登場人物の心情を捉えてから、そのイメージを音楽でどんなふうに表現しているのかという課題意識をもちながら音楽を聴いて、シューベルトはそういう工夫をしていたのかということをお明らかにしていくことができる構成になっています。

一方で、教芸のほうの「魔王」ですけれども、最初に楽譜がどんと掲載されておりまして、その楽譜を基にしながら51ページにある「深めよう音楽」のページを活用し、音楽の特徴を見出していくことが可能な構成となっております。

このページについては小委員会でも話題になりまして、教出のほうにイメージをもたせる工夫が見られるので、学びを深めやすいということも話題になっておりました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

○中野委員 教育出版の2・3年生の下32ページ、教芸の2・3年生の上の52ページに「アイダ」という有名なオペラが紹介されていますけれども、教育出版は第2幕の第2場の楽曲に集中していて、そこをより詳しく、全体を示す写真を載せてドラマチックにさせています。

教芸の場合は、1幕、2幕、3幕、4幕と、全部の通しでいろいろな楽曲を紹介しています。ですから、教芸のほうは、全体的なストーリーを終える感じですよ。

教出は、一つに焦点を絞っていて、36・37ページに、オペラ、バレエの「白鳥の湖」を比較しています。これは比較になっていて、教芸は、「アイダ」の中の場面、場면을鑑賞するというので、一つを深めるということと、いろいろと比較するというので違いが表れていると思います。

ですから、ストーリーは教芸が分かるのですけれども、音楽だけということになると、4幕を全て聴く時間はないですから、どこかに絞らなければいけないという意味では、スタンスが違っており、どちらもよいとも悪いとも言えないと思います。

○石井委員 どちらにもよさがあると思いますけれども、実際に現場では比較したほうが子どもたちにより気付きを与えやすいのか、それとも、一つのをじっくりやるのがよいのか、現場の声が聞きたいと思いました。

○長谷川教育長 答えられる範囲で結構ですが、実際はどうなのでしょう。

○河合研修担当係長 比較することで、Aに対してBという何もない状態よりは、こっちがこうだったから、それに対して、ここは一緒だとか、ここは違うのだという気付きを与えやすいということは言えると思います。

○長谷川教育長 もう一点のご質問ですが、先ほど、阿部委員から北海道の関わりのあるところということでご説明いただいたのですけれども、今、鑑賞の話があったのですが、音楽をつくるということで、教出は2・3年生の下24ページに、「CMソングをつくろう」、教芸のほうは、2・3年生の下30ページに「マイメロディ」ということで、教出のほうは、CMソングの「マトンとラム」ということで、ジンギスカンの歌を作るということで、これは札幌や北海道の子どもたちであれば、最初の食いつきが非常に違うと思うのですが、実際は中身自体を同じことをやろうということでしょうか。マトンとラムということ縛って

しまうのはどうなのかという気もするのですが、子どもたちの予想される反応は  
どうなのでしょう。

○河合研修担当係長 身近で知っている言葉が教科書に載っているということ  
では、食いつきはよいと思います。

そして、考えられる授業の進め方としては、こうやって身近な言葉が載ってい  
るから、自分たちの身近なことをCMにしてみようかということで、導入が図り  
やすいと思います。

○長谷川教育長 分かりました。ありがとうございます。

○佐藤委員 おもしろいですね。気付きませんでした。

教育長はよくお気づきになったと思います。

○長谷川教育長 鑑賞の比較もあるのでしょうかけれども、創作とか、歌うことも  
含めてでしょうかけれども、そういったところを見たときに、少しどうなのかなと  
思いました。

○中野委員 これを使って指導される先生方にとって、どちらがやりやすいの  
かという論点も大事だと思うのですが、この音楽を全てやるわけではなく、ピッ  
クアップしてやると思うのですが、北海道にとって選択肢がより広いといえます  
か、そういう観点でピックアップしやすいという観点で、両者に差はあるのでし  
ょうか。

○河合研修担当係長 北海道のことに対しての取扱いが多いのは教出のほうに  
なります。

○長谷川教育長 ほかにもということですか。北海道だけに限らずということ  
ですか。

○中野委員 全てのところを教えるわけではないので、ピックアップするところ  
です。北海道でなくてもよいのですけれども、教員にとって抜き取りやすいと  
か、選択肢が広いという意味で差があるのかと思ったのですが、そこまでの差は  
ないのですか。

○河合研修担当係長 それはないですけれども、今、説明させていただいたよう

な教材は多くの学校で取り扱われていると思います。

○長谷川教育長 どちらも、それほど選択肢の幅が狭いとか広いということではないのですね。

○河合研修担当係長 そういうことではないです。

○長谷川教育長 この二つはすばらしい教科書なので何とも難しいですね。

○阿部委員 今、質問に対してのお答えを聞いている限りでも、どちらが選ばれたから駄目ということではないと思うのですけれども、鑑賞領域において比較検討したほうが、子どもたちの気付きがあって、理解が深まるというご回答と北海道の関わりのある題材の多さが教出が6か所で教芸が4か所と前回に教えていただいた経緯がありましたので、あとは、教育長からお話がありました、私も気付いていませんでしたが、CMソングでマトンとラムの2種類があるという北海道にゆかりのあるCMソングを作るという題材の取上げ方から感じましても、教出という感じが今の時点ではしております。

○長谷川教育長 どうですか。

○佐藤委員 マトンの前もみそラーメンなどもあり、私も教出に賛成いたします。

○中野委員 私は、先ほど同じだと思っておりましたので、一つの音楽を極めて、一つのことをじっくりやったほうが個人的には好きですけれども、教育、教えるほうの比較のほうがより指導しやすいというのであれば、私も教育出版に変えます。

○石井委員 私も個人的に1曲を深めることはすごく好きですし、音楽と社会のつながりという面を考えると、教芸のほうが優れていると思ったのですけれども、今、表現領域で比較してみたところ、結構教芸のほうが非常に高度な感じを受けて、音楽が苦手な子どもたちに対しても教出のほうが、例えば、日本語の抑揚を生かした旋律をつくろうとか、リズムパターンとか、先ほど、教育長がおっしゃったCMソングとか、割と取りかかりやすい部分かと思いますので、教育出版に異論はありません。

○長谷川教育長 いろいろとご意見をいただきまして、両方ともすばらしい教科書だということでしたけれども、音楽一般につきましては、教育出版でよろしいのではないかとということで、選定させていただいてもよいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、音楽一般については教育出版を選定することといたします。

続きまして、器楽合奏についてであります。

これについても、教出と教芸の2者であります。

まず、各委員から、改めてご質問などがございましたらお願いいたします。

音楽一般と器楽合奏については、教科書会社が替わったとしても、使途上、特に問題ないという理解でよろしいですか。

○河合研修担当係長 はい。

○長谷川教育長 いかがでしょうか。ご質問は特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、器楽合奏の場合ですけれども、前回の審議における小委員会委員長の報告、それから、前回の質疑を整理いたしますと、これについては基礎的な技能に関する取扱い、そして、国際性を育む学習活動の取扱いの観点において特徴が見られたということです。

こういった観点を含めまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいのかということについて、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

それでは、石井委員からお願いいたします。

○石井委員 私は、どちらでも問題ないと思っています。

個人的には、教芸のほうが見やすく、使いやすいと思っているのですが、たとえば、リコーダーもギターもいろいろな種類が載っていて、子どもたちに楽器に対する興味をもたせることができると思ったのが教芸さんでした。

ただ、どちらでも問題はないと思っています。実際に札幌市では箏を使用しているということなので、箏のほうがですと、教育出版のほうが充実しているのではないかと考えています。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私もどちらでも構わないと思うのですが、札幌市では箏を取り上げているところが多いということですから、箏のところを選択のポイントにするということであれば、教育出版のほうかと思えます。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 私も今までのご意見に賛成いたします。

札幌市で実際に和楽器に触れられるのは箏だけですので、箏の基礎的な技能がより詳しいほうがよいと思いました。そういう意味で、教出がよろしいのではないかと思います。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 どちらが選ばれても大差はないと感じています。ほかの委員の話にもありましたように、箏のページを2者で比較検討しますと、教出は箏の全体像の写真に演奏しているシーンがあるのは教出だけになっていることを感じたのと、それは36ページですけれども、38ページに、姿勢と構え方というページがあって、こちらにつきましても、写真のアングルといいますか、写真の撮影の仕方が子どもたちに非常に分かりやすく表現されていて、教芸でも42ページですけれども、こちらも分かりやすいのですが、ちょっと下を向いた感じになっているのです。そこを比較検討しますと、写真のアングル的には教出のほうが、模倣してできるのはどちらかとなったときに、比較検討すると、私は教出ということがありましたので、最終的には教出がよいと思っています。

○長谷川教育長 石井委員からも、どちらも優れた教科書だというお話がありました。皆様のご意見を総合的に判断いたしますと、器楽合奏については教出でよろしいのではないかと思いますけれども、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、器楽合奏については、教出を選定することといたします。

ここで、10分ほど休憩を入れたいと思います。

[ 休 憩 ]

○長谷川教育長 それでは、審議を再開いたします。

次は、道徳についてです。

道徳につきましては、7月29日の審議におきまして、東書、光村、学研の3者を選定の候補といたしました。ここから1者を選定したいと思います。

まず、前回の審議を踏まえまして、さらに皆様からご質問がございましたら、お願いをいたします。

いかがでしょうか。

○中野委員 道徳の題材の後に質問とか問いを各者で出していると思うのですが、実際に指導するほうとして、問いは選択肢をたくさん例示されたほうがよいのか、それとも、教員が問いなどがあまり多くなくても指導して、生徒からいろいろな問題を引き出したほうが指導しやすいのか、現場は具体的にどのような実態になっているか、指導のしやすさで何か差があるのかどうかというところをお聞きしたいと思います。

○長谷川教育長 質問の数について各教科書に特徴があると思うのですが、限られた授業時間の中でどういう形がやりやすいのか、差し支えない範囲で結構ですので、お願いいたします。

○高橋企画担当係長 3者で共通して掲載しております「旅の季節」にてご説明させていただきます。

東書と光村につきましては、3年生の教科書をご準備ください。学研につきましては、2年生に掲載されていますので、2年生の教科書をご準備いただけますでしょうか。東書は3年生の142ページをご覧ください。光村は3年生の103ページです。学研につきましては、2年生の130ページをご覧ください。

3者共通の教材につきましては、教材文後ろに問いを掲載していますが、その数については各者に違いがあります。

まず、東書につきましては、「考えよう」と「自分を見つめよう」に項目を分けて、一つずつ掲載する形になっています。

次に、光村ですが、「考えよう」といたしまして、教材のテーマ、ねらいを掲載し、そのねらいに迫る問いを二つ掲載した上で、「つなげよう」という問いを掲載しています。

学研につきましては、「考えよう」といたしまして、ここでは二つの問いを掲載しております。

このように、各者で問いの数が異なっています。

東書のように、問いが二つに精選にされていることは、議論する時間が十分に確保され、子どもたちが議論の中で道徳的価値を深めていくことが可能な構成となっております。

また、東書においては、「考えよう」と「自分を見つめよう」と分かれていることによって、議論の観点が明確に示されることで、子どもたちが考えやすい構成となっております。

対しまして、光村のように、問いが複数掲載されており、テーマやテーマに迫る問い、加えまして、つなげようといった日常生活、他教科、他教材へ関連させることを促す問いが掲載されていることは、思考の筋道が示され、その筋道に沿って生徒が考えていくことが可能な構成となっている特徴があります。

以上です。

○長谷川教育長 学研もお願いします。

○高橋企画担当係長 学研は、「考えよう」として、複数掲載されておりますので、東書と同じように数が二つに絞られております。しかし、学研につきましては、教材によっては三つの問いを掲載しているものもありますけれども、問いの数が少ないということはそれだけ問いが精選されておまして、議論をする時間を確保することが言えると考えております。

○長谷川教育長 特に指導する上で、やりやすいとかやりにくいか、その発問の多さによっては、それほど影響はないのですか。

○高橋企画担当係長 それぞれ、筋道が示されるといった意味では、先生方がこの問いを使ってねらいに迫り、それから、日常生活、あるいは、この教材ではございませんが、「見方を変えて」といった違う視点からの問いも掲載されている光村にとっては、その筋道が示されることで考えやすいという特徴があると思えますし、東書や学研のように、問いが精選されているということは、子どもたちがじっくりその一つの問いについて、時間をかけて議論するといったことが可能になっていると思えます。

○長谷川教育長 いかがですか。

○阿部委員 今の中野委員の質問に関連して、質問の数という観点は授業の進行の仕方においては重要なポイントだと思うのですが、質問の質といいま

すか、質問の仕方によって、子どもたちの議論の深まりとか、今回、道徳のテーマにもある多面的・多角的という角度において、私は質問の数だけが比較検討にはならないと思っていて、質問の仕方の議論の深まりという意味で特徴のある発行者がありましたら教えていただきたいと思います。

○高橋企画担当係長 まず、光村のように、「考えよう」としてテーマを示し、そのテーマに沿った、ねらいに迫るような問いを掲載した上で、日常生活につながる問い、あるいは視点を変えた、「見方を変えて」といった問いが掲載されることは、道徳的な価値の理解を深め、さらに、視点を変えて様々な見方をする事ができるといった意味では、有効に活用できる構成となっていると考えております。

また、東書ですけれども、問いが二つに精選されています。ただ、場合によっては、この二つだけではなく、必要に応じて、この発問にたどり着くまでに補助的な発問をする必要がある場合があります。

その場合については、この道徳的価値に迫る問いと自分のこととして捉える問いのほかに、学級や学校の実態に応じて、補助的な発問を準備し、ねらいとする道徳的価値の理解につなげていくといったことが必要であり、東書や学研については、学級の実態に応じてデザインすることができると考えております。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、道徳についてでありますけれども、前回の審議における小委員会委員長の報告、そして、質疑応答、ただいまの質疑も含めまして、内容を整理いたしますと、課題探究的な学習活動の取扱いやいじめの問題、生命尊重など、自分や他者の生命を尊重する心を育む学習活動の取扱いといったところで教科書会社の特徴、違いが認められたと思います。

こういった観点も含めまして、札幌の子どもたちにとってどのような教科書がよいのか、各委員からのご意見を頂戴したいと思います。

それではまず、中野委員からお願いいたします。

○中野委員 私は、学研か光村で悩みました。

光村のほうは、先ほどもありましたけれども、どのように議論を発展させていくかという筋道を立てていくとか、視点とか、日常生活の問いとか、そういうことについて指導が発展しやすいところがあると思います。学研のほうは、問いが

少ないと思うのですが、「クローズアップ」という、関連するものに発展的に議論ができるような項目がございまして、これはどちらも非常に優れていると思います。

全般的に見て大差がないものの、道徳的な題材がちょっと多いといえますか、教材からいろいろと議論が発展しやすいということを考えますと、やや学研のほうを推したいということで、私は学研と思っています。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 私も、学研と光村で大いに迷いました。

道徳というのは、光村の各学年の冒頭に書いてありますように、よりよい生き方とはどんなものかということを考えて議論し、自分なりの価値観を形づくっていく教科だと考えておりますので、その始発となる考える視点を発問として授業で明示することが道徳の授業では非常に重要になると考えております。

そうした視点から、その発問の質、先ほど阿部委員のご質問にもありましたように、内容や量において、光村と学研は目立っていたと思っています。

特に、学研の各節の質問は確かに二つほどで少ないのですが、1学年に大体五つから六つある「深めよう」という、言わばプロジェクト型みたいな時間をかなり要する発問群ですけれども、これは、「考え、議論する道しるべ」を明確に示していて、さらに「クローズアップ」、それから、「クローズアッププラス」もありますけれども、これを併せていきますと、学研の発問は非常に多彩な広がりを感じさせる内容になっていると感じました。

ただし、これは前回の委員会のご報告、ご指摘にもありましたように、「クローズアップ」や「クローズアッププラス」も加えていくと、どうしても焦点がやや拡散的になりがち傾向も否めないということでありました。

限られた時間の中で、どれくらいの発問が適切なのか、あるいは、こういうふうに教科書に書いてあることがどれくらいの分量であることがよいのかということについては、いろいろなご議論があると思います。そのように、よいところ、悪いところという長短が学研の質問にあると思います。

また、別な観点で、先ほど中野委員も触れられましたけれども、収録された作品とか題材の内容的な厚みで両者を比較すると、ここは光村に一日の長があると私も考えました。

それから、光村の発問を見ますと、「見方を変えて」「つなげよう」というあたりに、他者とはまた違った観点の発問があって、ここも好ましいということと併せますと、やはり今回は光村のほうを推したいと思います。

○長谷川教育長 それでは、阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私は、光村がよいと思っています。

その理由につきましては、前回の会議の中でも発言させていただいたのですが、まず、道徳的価値ということで、他者への思いやりをもつということは、全教科の中でも道徳で学ぶべき点と非常に思ったときに、題材の最後の発問の質は非常に重要なポイントになると思っています。

特に、光村の発問の仕方は、佐藤委員からもお話がありましたように、「見方を変えて」というところについては、相手の思いをどう感じて察するかというところを重点にしていると思いますし、「つなげよう」というところにつきましては、社会とのつながりや、生き方について考える発問になっていると感じています。そのような状況から、議論が多面的・多角的に深まるのではないかと感じております。

それから、生命を尊重する部分におきましては、いじめを題材にどの教科書も取り上げていただいているのですが、光村の場合は、特に題材の後で考えを深めるという「深めたいむ」というコーナーが設けられていまして、そこにつきましても生命の尊重などが十分に深まるような活動ができる題材というか、考えていけるような内容になっていると思いましたので、総合的に見て光村と思います。

○長谷川教育長 石井委員、お願いします。

○石井委員 私も光村と思っています。

先ほどから各委員からも意見があったように、発問の質も光村さんは「見方を変えて」という多角的・多面的に道徳について考えられる問いがあって、優れていると思いました。

また、生命尊重の面からも、様々な人物や、自然と共生していく視点が3年間を通して感じられたと思っています。

特に、1年生の「ソーセージの悲しい最後」という題材は、北海道に暮らしている私たちにとっては、非常に考えなければいけない問題だと思っていまして、こういった動物や自然との共生の部分でも非常に考えられるのが光村だと思います。

2年前も道徳の教科書の採択があったと思うのですが、そのときに比べて、光村は教材がすごく読みやすくなっていて、漫画があったり、文章も子どもたちが非常に読みやすく編集されていて、また、大きさに関しても他者と比べて小さいということで、市民意見にもあったと思うのですが、子どもたちが

自宅に持って帰って、家族で道徳について考えることもできるのではないかと思います。

また、3年間を通して、小学校の教材でも扱っていたものが載っていて、子どもたちが小学校の題材を中学校でも読んで、自分の成長を感じたり、より道徳的価値を深める機会を与えることができるのではないかと思います。

巻末の振り返りシートも他者は割と成長の記録というか、自分で評価するところがあるのですが、光村は学びの記録というところにとどめておいて、子どもたちが好きに書ける点も非常に好感をもっています。

○長谷川教育長 各委員からそれぞれご意見をいただきました。

中野委員は光村と学研の両方ともよいというお話がありましたけれども、さらに各委員からありませんか。

○中野委員 私は学研と光村のどちらでもよいと思って、個人的には学研のほうが、出来、不出来といいますか、指導する上で議論が拡散しやすいという問題点があって、指導するのに一工夫が必要かと思います。

光村のほうが安定感があるといいますか、指導する上では特段の難点が少ないという意味では、ほかの3人の委員が光村ということであれば、私も光村に同意いたします。

○長谷川教育長 それでは、今ほどございました、皆様のご意見から判断いたしますと、道徳については光村を選定するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、そのようにさせていただきます。

次に、保健体育です。

保健体育については、7月29日の審議におきまして、大修館、学研、東書の3者を選定の候補といたしました。本日は、この3者から1者を選定したいと考えています。

それでは、前回の審議を踏まえまして、各委員からご質問などがございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、そして、質疑応答の内容を整理いたしますと、保健体育につきましては、課題探究的な学習活動の取扱い、基本的な生活習慣の確立のうち、特に、感染症の取扱いや命を大切にする指導などについて、各教科書会社に特徴、違いが見られたと考えております。

こういった観点を含めて、どういった教科書がより望ましいかということについてご意見をいただきたいと思ひます。

それではまず、佐藤委員からお願いいたします。

○佐藤委員 いずれも内容的に大きな差はなく、大変甲乙がつけがたいと思ひました。

その中であえて選ぶとすれば、私は大修館がよろしいのではないかと思ひます。言ってみれば、読みやすく、落ち着いた配色で各節の要点が読み取りやすくなっていると思ひます。それから、各者の章のまとめに注目してみたのですが、大修館が最も充実しています。前回、この章のまとめがどのように利用されるかということについて質問したのですが、小委員会のお答えとしては、ここは授業というよりも、自学・自習の際に利用するというお話でありましたので、そういう観点から見ると、最も分量が多く充実している大修館がよろしいのではないかと思ひました。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私も大修館と思ひています。

まず、基本的な生活習慣の確立についての取扱いのところにおきましては、生活習慣のがんの早期発見や実際にがんにかかった方のコラムを載せるなど、そういったところに特徴があると思ひました。

また、感染症の予防や免疫については、他者と比較してページ数を非常に割いていただいているところと、マスクやせきのエチケットに関する事などが合理的解決につながる取扱いの仕方をしてくださっているところが非常に優れていると思ひました。

もう一つの観点の命を大切にする指導の取扱いというところにおきましても、リラクゼーションという技能的なところが扱われていたと思うのですが、体の緊張をほぐす活動と関連付ける表現の仕方をしてくださっていて、中学生にとって非常に分かりやすい内容になっていると思ひました。ですので、総合的に見ても大修館が他者に比べると秀でていると感じました。

○長谷川教育長 石井委員、お願いいたします。

○石井委員 私も大修館と学研がよいのではないかと考えています。

大修館は、感染症でマスクを付ける際に、マスクの構造の視点から考える活動などがある、非常に科学的に保健体育を考えることができる教科書だと思っています。

ただ、私が学研さんもよいと思う理由は、心の部分の配慮を非常に感じたところです。例えば、感染症のところだと、学研だけが感染症にかかった人たちの人権の配慮をしています。今はコロナウイルスが非常にはやっていて、感染者に対する誹謗、中傷が問題になっていますが、そういった偏見や差別などの問題を扱っている点など、命を大切にしている指導の取扱いのところで学研はすごく手厚いと思っています。リラクセーションの方法もそうですけれども、それだけではなくて、コミュニケーションの取り方を載せていたり、優しさを非常に感じました。

これも命を大切にしている指導の取扱いにかかると思うのですけれども、性に関する指導に関しても学研は非常に手厚いのではないかと感じています。

例えば、大修館は39ページに、学研が53ページに同じように性とどう向き合うかとか、関心の部分を取り扱っているのですけれども、自画撮り被害についても載っています。見比べると、大修館はコラム的な扱いで、学研はまとめる、深めるという感じで、子どもたちに自画撮り被害に遭ったときにどう対処すればよいのかを考えさせるつくりになっています。今、子どもたちが自画撮りの被害に巻き込まれることが問題になっているので、そういった実践的な面が載っているところも学研のよいところだと思いました。

また、性感染症の部分でも学研は結構手厚いのではないかと考えています。例えば、性感染症になったときの治療法が学研にはしっかりと載せているのですが、大修館は、どういった症状が出るのかというところにとどまっています。もしなってしまった場合にどういった治療が必要なのかということはとても大切で、今は子どもたちの妊娠の低年齢化なども問題になっていますので、性教育は学校で取り扱って手厚くやってほしいという声が保護者から多くあります。

そういった部分で、大修館もよいのですけれども、命を大切にしている視点が感じられるのは学研だと思っていますので、私はどちらかというと学研のほうがよいと思っています。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私も大修館か学研と思っています。

各委員がおっしゃったとおり、大修館は、今日的に問題になっている感染症に対する内容が大変厚いということで、少ないページにこれだけまとめていらっしゃるという面で、非常にタイムリーな内容がそろっていると思っております。

学研も感染症も性感染症も含めて非常に大きく触れておりますので、甲乙つけがたいと思えますけれども、今、一番問題になっていて今後も続くであろう新型コロナウイルス等の感染症に対する説明の内容は、大修館のほうがやや分があると思えます。大修館と学研は両方とも非常によいと思えますが、今、この場でどちらかと言われると大修館を推したいと思えます。

**○長谷川教育長** 今、それぞれの委員からご意見をいただきましたけれども、改めて何かございましたら頂戴できればと思えます。いかがでしょうか。

質問ですけれども、せんだって同じようなことをお伺いしたのですが、札幌の子どもたち、特に中学生の女子の体力については課題があるのではないかと思っております。そういった体力の向上については、各者それぞれにどういった特徴があるのか、改めて伺いたいと思えますが、いかがでしょうか。

**○大巻義務教育担当係指導主事** 札幌の子どもは、全体的に体力が低いということが継続的な課題となっております。さらに、運動習慣においても二極化となっており、特に中学生の女子では、4人に1人が体育の授業以外で運動しないことが札幌市の課題となっております。

反面、運動やスポーツが好き、体育が楽しいと感じている生徒が多いことが札幌市の特徴であり、札幌市としては、トレーニングということではなく、運動が楽しいとか、またやりたいと感じたり、生涯にわたって運動に親しんでいきたいと思ったりできる子どもを育成することが大切だと考えております。

このたびの学習指導要領の改訂のポイントや取扱いについては、顕著な特徴が表れておりましたので、ご説明申し上げます。

東書の55ページをご覧ください。

年代ごとに運動への関わり方を具体的に考える活動が設定されております。

続きまして、学研の21ページをご覧ください。

先週、委員長からお話のあった箇所になるのですがけれども、スポーツのおもしろさの条件についてイーブンチャンスを挙げ、中学校1年生と小学校3年生が相撲をしたらどんなルールを加えると楽しくなるかを考える活動が設定されるなど、運動の程度や性別に関わる共生という視点で運動を捉えることができる構成となっております。

続きまして、大修館の8ページをご覧ください。

左下に、野球を例に、する、見る、支える、知るの視点で写真や説明を用いて

具体的に示しており、まとめの学習で、今後の中学校生活でどのように生かすかを考える活動が設定されております。

さらに、10ページの資料2では、ランニングの楽しみ方を多面的な視点で示しており、自分だったらどうするかという新たな視点に気付くことが可能な内容となっており、随所に工夫されております。この場面では、運動の苦手な子でも自分だったらどのような関わり方ができるかというところで、中学校1年生の最初の部分で楽しみを見付けることを学ぶのがとても重要ということで、新たな視点として学習指導要領の改訂のポイントとなっているところです。

以上のように、それぞれに特徴があります。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ほかにご質問、ご意見などはございませんでしょうか。

今、皆さんからは、大修館もよいけれども、学研もなかなか捨てがたいというご意見を伺っているところです。

○石井委員 私は大修館でも学研でもよいのですけれども、大修館はスポーツが苦手な子に対する配慮をすごくされていると思っています。イーブンチャンスの視点であったり、24ページのアダプテッド・スポーツをつくる部分です。

○長谷川教育長 それは学研ですか。

○石井委員 はい。

24ページのアダプテッド・スポーツをつくる活動が非常におもしろいと思っています。

私は、ここでこんなことを言ってよいのか分からないのですけれども、中学生のときは体育が非常に苦手な女子でした。その理由は、勝敗がついたり、できないことに対する劣等感だったのです。劣等感をもつとスポーツに対して余計に拒絶反応が起きるので、そういったことも札幌市の子どもたちの体力が落ちている理由の一つなのではないかと勝手に思っています。

そういったときに、イーブンチャンスやスポーツをつくる活動をするのはすごく面白いのではないかと思います。私は苦手な子に対する配慮という意味でも学研が好きなのですけれども、大修館にも運動やスポーツの多様な楽しみ方という視点もしっかり載っているので、大修館になっても遜色はないと思っています。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

今、石井委員から、学研はスポーツが苦手な子に対する配慮が非常に多いとい

うお話がありました。それから、性の関係についても取扱いが非常になされているというお話もございました。一方で、大修館もそれぞれ優れたところがあるということでした。

先ほど、中野委員から、感染症の関係については学研も取り上げているけれども、大修館のほうがかなり詳しい説明なり、指導内容になっているというお話がございましたけれども、その辺は、かなり詳しい形で取り上げられているという理解でよいのでしょうか。

○中野委員 マスクの具体的な構造などにも触れておりますし、保健の話というと、流行を追うようなものでは本来は駄目で、基本的な、基礎的なものをきちんと説明しなければいけないことがあります。各者は触れてはおりますけれども、総合的に見ますと、大修館のほうが詳しく書いているという印象をもっています。

○長谷川教育長 ほかにありませんか。

繰り返しになりますけれども、今、石井委員から、学研も優れたところが各所にありますが、大修館であってもよいというお話がございました。

総合的に判断いたしまして、保健体育につきましては大修館ということによろしいのでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、保健体育につきましては大修館を選定することといたします。

次に、社会について審議を行います。

最初に、地理です。

地理につきましては、7月29日の審議におきまして、教出、帝国、日文の3者を選定の候補といたしました。この中から1者を選定したいと考えております。

各委員からご質問などがございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、地理についてであります。前回の審議や小委員会委員長の報告、質疑応答等々を整理いたしますと、課題探究的な学習の取扱いや資料の取扱いの観点において各教科書会社の特徴が見られたということで

あります。

こういった観点を含めまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいか、各委員からご意見をいただきたいと思います。

まず、阿部委員からお願いいたします。

○阿部委員 私は、帝国がよいと思っています。

理由としましては、まず、未来の札幌を考える環境の取扱いというところにおきまして、巻頭ページに札幌の未来が想像できるSDGsと絡めた内容を表現してくださっているところが非常に共感できると思いました。

それから、資料の取扱いというところですが、前回、お話をお伺いしましたら、自社で現地に行って撮影しているということでした。現地で撮影したものの掲載の仕方が非常にダイナミックで、どのページを見ても、現地になかなか行けない事情がある中で、臨場感のある扱い方をしてくださっているところにおいて、圧倒的だと感じております。

○長谷川教育長 石井委員、お願いいたします。

○石井委員 私も、帝国が適しているのではないかと考えています。

今、阿部委員がおっしゃったように、資料に関して、帝国は本当にダイナミックで見やすくよいと思います。

私は、前回、コラムに関して質問させていただいたのですが、コラムも非常によいと思いました。特に、技能を磨くというところは、資料を学ぶ上で他者と比べてすごく実践的で優れているのではないかと思いました。

また、各章や節の振り返りのところも非常に見やすく、「学んだことを確かめよう」では、知識の定着を図って、さらに、地理的な見方・考え方を働かせて説明しようというところまで発展させている点も非常によいのではないかと思いました。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私は、帝国がよいと思います。

全般的に見やすい構成ですし、写真や見本についても非常に特徴的で、極めて印象的に捉えているものを選ばれています。また、自分で1次資料を撮っているところにアドバンテージがあると思います。

総合的に見ますと、地理においては、帝国の内容のほうがかなり高いと判断しますので、帝国を推したいと思います。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 前回は申し上げましたように、私は、日文の「発問を深めよう」に生徒の多様な興味関心を喚起する発展的な問いが多く含まれていると感じて、特徴的だと思っておりました。

また、これは教出も同じですけれども、教出については、内容的な水準として、どの学力層の生徒にも理解しやすいように必要な情報を絞って掲載している印象を受けました。

一方で、帝国は内容的な水準が他者よりもやや高く、工夫された図版を各所に配置するなどして、情報量も比較的多い印象を受けております。また、帝国は、節ごとの学習のまとめや振り返りの比較において、最も充実しているのではないかと感じました。

そこで、どちらがよいかということですが、日文の「発問を深めよう」の内容は、帝国の発問ともかぶっていることが多いということ、それから、情報量が帝国のほうが多いことから、札幌市の中学生の皆さんには帝国で取り組んでいただきたいと総合的に判断しまして、取り組みがいのある帝国を考えております。

○長谷川教育長 ただいま、各委員からご意見がございましたが、いずれも帝国ということでございました。

地理につきましては、帝国書院を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、そのようにさせていただきます。

次に、歴史です。

歴史につきましても、前回、7月29日の審議において、東書、帝国、日文の3者を選定の候補といたしました。この中から1者を選定したいと思います。

各委員からご質問などがございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 歴史につきましても前回の審議における小委員会委員長の報告、その際の質疑応答の内容を整理いたしますと、課題探究的な学習活動の取

扱い、そして、北海道の歴史の取扱いに各教科書の特徴、違いなどがあったように思われます。

こういった観点を含めまして、どの教科書がより望ましいかということについてご意見をいただきたいと思います。

まず、石井委員、お願いいたします。

○石井委員 私は、帝国書院がよいのではないかと考えています。

前回の会議でも意見を申したのですが、特に、「タイムトラベル」というところは課題探究というところで子どもたちの関心や学びの意欲を引き出すのに非常によいのではないかと考えています。また、「前の時代と比べて特色を考えよう」という問いも非常によいと思いました。

それから、北海道の取扱いの部分で、前回、阿部委員から年表に関する質問があったと思うのですが、帝国書院だけに北海道の時代の流れが載っているのので、北海道、札幌の子どもたちが学ぶ上でよいのではないかと考えました。

あとは、多面的・多角的に考えてみようというコラムも非常によいと思っています。特に、230ページの母性保護論争に関しては、市民意見にもあったと思うのですが、女性として、子どもたちそれぞれが自分の考えを深めていってほしいと思いました。

以上です。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 私は、帝国か東書というところで悩みましたが、帝国は北海道についての記述を古墳時代から現在まで一貫して記述しています。また、全般的にかなりまとまっていることと、先ほど、石井委員がおっしゃっていましたが、でも、「タイムトラベル」では図表を使った印象的な表現があります。

東書も図版の使い方が非常に分かりやすく当時の状況が分かりますので、なかなかよい本だと思います。

どちらがよいかということですが、札幌市というところを考えますと、北海道の歴史を厚く取り入れた教科書を選ぶべきだと思いますので、歴史についてもどちらかといえば帝国を選びたいと思います。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 まず、地理と同様に、日文の「発問を深めよう」というところに着目して、理解を発展させる問いが設定されていると感じていた一方で、石井委員

がおっしゃったことと同じですが、帝国は、地理と同様に内容的な水準が他者よりも若干高いと思います。また、「タイムトラベル」を初めとして、工夫された図版が各所に配置されている点があるのですが、それを見て情報量が多いという印象を受けました。

それから、これも石井委員のご指摘のとおりですが、北海道の開拓の歴史やアイヌ民族に関わる内容も他者より充実していると言えらると思います。

歴史についても総合的に考えると、どちらかといえば帝国ではないかと考えております。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私も、皆さんと同じ意見で、帝国と思っています。

前回、質問させていただいたのですが、1ページ目に小学校からの接続として、この絵は何だろうという部分がありまして、小学校のときに学んだ出来事や人物がその道に沿って並んでいて、小学校からの導入ということについては非常に丁寧に扱っていただいているという印象を受けました。

それから、ほかの委員からもお話がありましたように、「タイムトラベル」のところが非常に分かりやすく表現されているところと、年表のところには北海道の歴史も扱っていただいている点におきまして、他者に比べて帝国がよいと思えました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいまの委員のご意見を総合的に判断いたしますと、皆さん、帝国書院がよいのではないかとということです。歴史については帝国書院を選定することによろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきたいと思えます。

続きまして、公民です。

公民につきましては、前回の審議において、帝国書院と東京書籍の2者を選定の候補といたしました。本日はこの2者から1者を選定したいと思えます。

まず、皆さんからご質問などがございましたらお願いいたします。

特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、公民につきまして、これも前回の審議における小委員会委員長の報告、そして、その際の質疑応答の内容を整理いたしますと、課題探究的な学習活動の取扱い、その他の人権の取扱い、そして、ふるさと札幌を心に持つ学びに関わる政治参加の学習などの観点において、各教科書の特徴、違いがあったように思います。

こういった観点を含めまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということにつきまして、各委員からのご意見をいただきたいと思いません。

それでは、中野委員からお願いできますか。

○中野委員 帝国と東書を見比べてもそれほど差がなく、どちらかが大きく上回っていることはない判断をしています。では、どこがよいのかということですが、私は、先ほどからずっと言っていますけれども、歴史も地理も帝国できていて、ここでまた帝国と言いつらいところがあります。

全般的に読んで図表なども見たのですが、帝国のほうが分かりやすい印象を受けます。出版社云々のことではなく、物の良し悪しだけで言わせていただくと、連続的になりますが、公民においても帝国を推したいと思いません。

ただし、ほとんど僅差ですので、東書でも問題はございません。

○長谷川教育長 佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 私も、両者とも、内容の構成や水準、見やすさや、図版の工夫に大きな差異はなくて、甲乙つけがたかい印象でした。

あえてポイントを挙げるとすれば、章のまとめ、振り返りの比較をしてみたのですが、帝国が用語や事項の確認が中心になっているのに対して、東書では、用語や事項の確認に加えて、章の頭に導入の活動と言いまして、問題提起をまずやって、章末でまとめの活動をしています。その導入の活動とまとめの活動が対応していて、課題探究の要素がより強められていた点が非常に印象的でした。

それは、どこの章でも獲得した抽象的知識を具体的な場面に落として整理する流れになっておりますので、授業で学んだ理解をより促すことに非常に有効ではないかと考えております。

この点から、私は東書を推したいと思いません。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私は、東書と思っています。

まず、アイヌの人たちの歴史、文化を取り上げているページは、帝国が4ページあるのですが、東書は10ページと非常に多くのページを割いて取り上げていただいている点があり、大きいと思いました。

あとは課題探究につきましては、38ページと39ページに「違いの違い」というところがあるのですけれども、カードを使いながら、見方や考え方を考えられるつくりになっていて、課題探究に近づける仕様になっていると思いました。

それから、70、71ページの「違いの違い」のところでは、「追求しよう」となっているので、そういった意味でも課題探究に近づけていけると思いました。

それから、前回もお話しさせていただいたのですが、東書は、今回、渋谷区のパートナーシップについて取り扱っていただいているのですけれども、札幌市でもパートナーシップを証明できるようになっていまして、小さいのですが、札幌市もやっていることを取り上げていただきます。札幌の子どもたちの皆さんに自分の住んでいる市がそういう活動をしていることを知っていただく意味でも東書がよいと思いました。

○長谷川教育長 石井委員、お願いいたします。

○石井委員 2者で非常に悩んで、私はどちらでもよいと思っていたのですけれども、帝国は本文が子どもに非常に寄り添っている文章で、好感がもてたのですが、東書の導入の活動も非常に面白いと思いました。それから、阿部委員が言っていた38ページの「違いの違い」や76ページの「誰を市長に選ぶ」など、東書には、導入で子どもたちを引きつける活動があると思いました。

それから、先ほど、阿部委員がおっしゃっていた同性パートナーシップ証明書や多様な性の意識を持つ人々への配慮の点で、74ページに共生社会が載っていますが、そういう視点も東書のほうが感じられると思ひまして、強いて言うなら東書と思っています。

○長谷川教育長 中野委員も、帝国と東書のどちらも甲乙つけがたい状況ではあるけれども、帝国ということでございました。他の委員につきましても、東書、帝国のどちらもよいけれども、東書のほうがよいのではないかということです。

東書のほうでは人権関係のお話をされていましたが、子どもの権利条約についてかなり詳しい記載があるということで、条例設置をしている我が市にと

ってもその辺は少しありがたい気はしております。  
その辺も含めて、中野委員、いかがでしょうか。

○中野委員 私はどちらでも思っていて、全体の構成や読みやすさなど、決定的な点で違いがあると申し上げているわけではございませんので、ほかの委員が東書ということであれば、それで問題ございません。

○長谷川教育長 分かりました。

それでは、中野委員からもございましたとおり、公民につきましては東書を選定するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

次に、中学校の関係では最後の地図になります。

地図におきましても、7月29日の審議におきまして、東書、帝国の2者を選定の候補としております。ここから1者を選定したいと考えます。

ご質問などがございましたらお願いいたします。

特によろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、地図につきましても、前回の審議における小委員会委員長の報告、その際の質疑応答を整理いたしますと、地域社会の社会的事象に関わる教材の取扱いや資料の取扱いの観点において、地図上の違いや特徴があったと認められます。

こういったことを含めまして、札幌市の子どもたちにとってどちらの地図帳がより望ましいかということについてご意見をいただければと思っております。

佐藤委員からお願いできますでしょうか。

○佐藤委員 両者とも、地図、資料のそれぞれにおいて十分な内容を備えておりまして、全く甲乙つけがたいところであります。

あえて違いを見付けるとすれば、前回の小委員会のご指摘にもありましたように、帝国は大判のメリットを生かして、地図がより広範囲に掲載されております。例えば、日本海や太平洋側からの札幌市の位置が分かりやすくなっていると

か、北海道と本州、青森県北部とのつながりが分かりやすくなっているといったように、地図が広範囲に掲載されているメリットがあると思います。

また、帝国は鳥瞰図を多用することによって、世界各地の地形を感覚的、視覚的に捉えやすい図を載せております。この点も一つ帝国のよいところだと思っています。

これらの点から、帝国を推したいと思います。

○長谷川教育長 阿部委員、お願いいたします。

○阿部委員 私も帝国と思っています。

まず、使用上の配慮という意味で、鳥瞰図につきましては帝国のほうが非常にわかりやすく、上空から立体的に捉えていただいていることと、生活、文化、産業などのイラストも配置しているので、地図が苦手なお子さんの見方がここにあるイラストによって少し変わってきたらよいという意味からも非常によいと思いました。

また、帝国の場合は地図活用が要所要所に出てきておりまして、前回教えていただいたときに、これがあることで自学や実習に活用できるというお話がありましたので、そういった意味からも帝国がよいと思っています。

○長谷川教育長 石井委員、お願いします。

○石井委員 私も帝国がよいのではないかとと思っています。

大判で見やすいところと鳥瞰図がたくさんあるので、子どもたちは地域のイメージが非常に湧きやすいのではないかと思いました。また、地図活用は子どもたちが自習などをする際に非常に役立つのではないかとと思っています。

○長谷川教育長 中野委員、お願いいたします。

○中野委員 地図帳については、地図そのものとしての内容と巻末に載っている資料の2面で比較すべきかと思っていますが、帝国と東書の資料的なところは、お互いに甲乙がなかなかつけがたいと思っています。ただ、地図のところでは、帝国のほうは大判であるメリットを非常に生かしていて、全体的に扱える範囲も広く取れますし、鳥瞰図は、上からかなり広範囲に記載できることもありまして、イメージが大変つけやすいと思います。

大判ですので、持ち運びは多少の難易があるかもしれませんが、地図は毎日毎日持ち歩くものではないと考えますと、内容がより分かりやすいほうを取

るべきだと思いますので、帝国のほうを選ぶべきかと思います。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいま、各委員から地図帳については帝国がよいのではないかということですので、帝国書院を選定することといたします。

中学校の関係については一旦終わったので、ここで10分程度の休憩を入れたいと思います。

[ 休 憩 ]

○長谷川教育長 それでは、審議を再開いたします。

ここからは、高等学校及び中等教育学校後期課程用の教科用図書について審議をいたします。

私から、部会長に確認させていただきます。

特定の組織や団体、あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はないということによろしいでしょうか。

○高等学校部会部長 一切ございません。

○長谷川教育長 それでは、高等学校部会の部長から、調査研究報告（答申）の説明をお願いいたします。

○高等学校部会部長 高等学校、中等教育学校後期課程部会部長の藻岩高等学校長の阿部と申します。

私から答申の主な内容につきましてご説明いたします。

なお、部会名については「高等学校部会」、教科用図書については「教科書」と省略して説明させていただきます。

高等学校では、義務教育である小学校や中学校が全ての学校で同一の教科書を使用するのは異なり、各学校に設置された保護者委員を必ず含む教科書選定委員会において、その学校に適した全ての教科・科目の使用希望教科書を学校ごとに選定しており、それらをまとめたものが「令和3年度使用希望教科用図書一覧表」になります。

高等学校部会におきましては、各教科に小委員会を設け、この一覧表を基礎資料として、基本方針に示された調査研究の観点を十分踏まえながら、学校教育目標、教育課程、各教科の指導方針、学習指導上の重点項目との整合性、生徒の能力、適正への適合などについて、教科書編修趣意書及び教科書見本等を参考

に、学校ごとに調査研究を行い、このたびの報告書、答申といたしました。

それでは、高等学校部会の答申をご覧ください。

表紙の次の高校1ページの右下の計の欄をご覧くださいいただけますでしょうか。

資料にはありませんが、高等学校用教科書目録（令和3年度使用）には、792点が掲載されております。

このたび、高等学校部会において選定した件数の合計は444点となっておりますが、この目録の中から442点が選定されております。

残りの2点についてであります。大通高校におきまして、海外帰国生徒等枠などで入学した生徒が日本語を学ぶために、学校が独自で設定している学校設定教科「表現技術」において開設する学校設定科目「日本語」で使用できる教科書がこの目録にないことから、学校教育法附則第9条の規定による教科書2点が選定されております。

答申をもう1ページおめくりいただきました高校2ページにも資料がありますが、学校別、教科別の継続選定数及び新規選定数の内訳を示した表になります。

表中の一番下をご覧ください。

このたび選定した教科書計444点のうち、継続して使用するものが①のとおり390点です。新規選定については、各学校において本年度使用している教科書とは掲載内容が大きく異なる教科書が②に示した「新規（R2採択本と異なる出版社）」50点と、その下の③に示した「新規（R2と同一出版社）」4点のそれぞれを合わせた54点となっております。

次に、各学校において、選定候補となっている教科書の新規選定や継続年数については、高校5ページに記載されている旭丘高校の国語の教科書一覧をご覧ください。

国語総合の新規・継続の別の欄には継5と記載されております。この教科書は、令和3年度使用の教科書として選定候補とされており、今回の採択を経て継続5年目となることを示しております。

続いて、答申の内容についてご説明申し上げます。

各学校では、資料に記載されておりますとおり、学校教育目標、重点目標及び教育課程の編成の方針に基づき、各教科における学習指導上の重点事項を定めております。

この重点事項を踏まえて、ふさわしいと考えられる教科書を選定し、その理由を明記しております。

それでは、市立高等学校の多くの生徒が履修している、教科「地理歴史」科の中の日本史Aという科目を例にご説明いたします

日本史Aは、学習指導要領により定められた選択履修科目であり、現行の学

習指導要領では我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき、地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことを目標としております。

それでは、お手元の調査研究報告書（答申）の高校93ページの上段をご覧ください。

こちらには、大通高校の学校教育目標、重点目標及び教育課程の編成の方針が記載されております。

さらに、各教科では、これらを基に学習指導上の重点項目を定めております。上から三つ目の教育課程の編成の方針の3では、生徒一人一人の能力に応じたきめ細やかな指導により、基礎・基本の定着を図るとされております。

続いて、高校94ページの上段、大通高校の地理歴史の学習指導上の重点項目をご覧ください。

ここには、「地域や世界の歴史や文化とその交流を理解し」と記載されており、大通高校では、これらの観点から使用希望教科書を選定しております。

それでは、スクリーンをご覧ください。

こちらの教科書は、清水書院の「高等学校 日本史A 新訂版」ですが、二つの序編と三つの本編で構成されております。

特に序編では日本の近代化とアイヌの人権を取り上げ、日本の歴史と世界、特に、東アジアとの関係について述べられており、身近な地域や世界の歴史や文化を通した題材から、興味関心を引き出し、日本史の学習をスタートできるようになっています。

再びスクリーンをご覧ください。

本編の題材についても、本文の左に資本主義や植民地などの語句の説明が分かりやすく示されるとともに、本文の右には、地図や貿易に関連した図により日本史が苦手な生徒にとっても分かりやすく、基礎・基本の定着を図る工夫がされております。

したがいまして、先ほどの学習指導上の重点項目を踏まえて、選定された教科書として、選定理由にあるとおりにもふさわしいものとなっております。

次に、答申の高校29ページの上段をご覧ください。

こちらには、清田高校普通科普通コースの学校教育目標等が記載されており、学校教育目標の1では、「すべてのことになぜと問い、きわめ確かめる生徒であれ」、その二つ下の教育課程の編成の方針の3では、「生徒の学習への興味関心を高め、思考力・判断力・表現力の育成を図る」とされております。

続いて、高校30ページの下段をご覧ください。

清田高校普通科普通コースの地理歴史の学習指導上の重点項目の二つ目の部

分の後半に、「生徒が主体的に学習に参加できるように指導する」と記載されております。

それでは、同校で選定候補となっている実教出版の「高校日本史A 新訂版」についてご説明申し上げます。

スクリーンをご覧ください。

各章を構成する各節の初めには、「歴史の窓」というコラムがあり、学習内容に関連のある具体的なエピソードを写真や図版とともに分かりやすく紹介し、締めくくりの部分では、その節の鍵となる問題提起で学習の動機付けを行うことによって、生徒の学習への興味関心を高めやすい構成となっております。

各章の題材についても「歴史を考えてみよう」などとして、各種資料を活用しながら探究することを生徒に促す課題が設定されております。ここでは、「QUESTION1」「QUESTION2」などとして、生徒がなぜと問い、極め、確かめる姿勢を身に付けられるよう、問いかけが工夫されており、授業では、この問いかけを基に生徒一人一人が探究を進め、その成果を発表することによって、思考力、判断力、表現力の育成を図るとともに、生徒が主体的に学習に参加できるよう工夫されており、先ほどの学習重点指導上の重点項目を踏まえて選定された教科書として、選定理由にあるとおり、ふさわしいものとなっております。

なお、同校では、グローバルコースにおいても同一の教科書を選定しております。

最後に、高校7ページの上段をご覧ください。

こちらには、開成中等教育学校の学校教育目標等が記載されており、学校教育目標の【生徒のすがた】の1では、「自ら課題を発見し、生涯にわたって学び続ける力を大切にします」、その二つ下の教育課程の編成の方針の2では、「課題探究的な学習の機会の充実を図り」とされております。

続いて、高校108ページの中段をご覧ください。

開成中等教育学校の地理歴史の学習指導上の重点項目の一つ目に、「歴史的思考力を培い地理的認識を養うため」、二つ目に、「様々な文化が形成される歴史的過程と地域的特色を踏まえた理解と認識を促すと」とされております。

それでは、同校で選定候補となっている東京書籍の「日本史A 現代からの歴史」についてご説明申し上げます。

スクリーンをご覧ください。

こちらの教科書は、序章と五つの章から構成されており、序章の私たちの時代と歴史には、近現代の歴史事情と現在との結び付きが世界地図とともに記載されております。

左のページの世界地図に記されている地域紛争については、前年度に履修し

た世界史Aにおいて既習事項となっており、その歴史的背景を日本史の学習の中で再考察することで、世界とその中の日本を広い視野から捉えられるため、歴史的思考力を培い、地理的認識を養うことが可能となっております。

再度、スクリーンをご覧ください。

こちらの外国人による書き下ろしコラムの「世界からのまなざし」では、世界的視野に立ち、日本を取り巻く国際環境などと関連付けることによって、歴史的な見方、考え方を身に付けられる内容が記されております。

このコラムを授業で活用することにより、課題探究的な学習の機会の充実を図る際に、生徒が自ら課題を発見し、その課題を様々な文化が形成される歴史的過程と地域的特色を踏まえた理解と認識を持って探究できるよう工夫されており、同校の学習指導上の重点項目の内容にふさわしい教科書であると言えます。

これらの教科書以外にも、その他の学校において発行者は異なりますが、各校の教育課程や生徒の実態等に合わせて適切な教科書を選定するなどの状況となっております。

以上、3校の日本史Aの選定候補となった教科書を例にご説明させていただきましたが、その他の旭丘高校、藻岩高校、新川高校、平岸高校、啓北商業高校及び山の手支援学校、山の手支援学校は8月1日より校名が変更となっておりますが、以上における他の教科、科目についても同様に、各学校の教育目標、学習指導上の重点項目等を踏まえて選定された教科書と選定理由を調査し、いずれも各校の生徒にとってふさわしい教科書であることを確認しております。

なお、全体的な傾向としては、全日制課程普通科や中等教育学校後期課程では、生徒の能力や進路希望に応じて、基礎・基本の定着に加え、高度な内容を含んだもの、全日制課程未来商学科においては、基礎・基本の定着を目指し、生徒の興味関心を喚起するものを選定候補としております。

また、定時制課程の大通高校及び山の手支援学校高等部におきましては、生徒が興味関心を持って学習ができるとともに、基礎・基本の定着を図れるよう十分配慮されたものとなっております。

以上で、高等学校部会の調査研究報告書（答申）の説明を終えさせていただきます。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいまご説明がありましたとおり、高等学校及び中等教育学校後期課程用の教科用図書につきましては、審議会から、学校ごとにそれぞれの教科課程に応じた選定の候補が挙げられております。

ただいまのご説明等に対しまして、各委員からご質問、ご意見などがございましたらお願いいたします。

○佐藤委員 我々が小学校と中学校の教科書選定をする際の参考として一つお聞きしたいのですけれども、各校や各者で様々な違いがあると思うのですけれども、新規、継続の別のところで、継続何年くらいが平均的なところでしょうか。

学校や教科によっても全然違うと思うのでけれども、目安として、もし考えておられることがあればお聞かせいただければと思います。

○牧野高等学校担当係長 教育課程担当課高校担当指導主事の牧野と申します。よろしくお願いたします。

今のご質問ですが、平均を正確に取ったわけではないのですけれども、過去のいろいろな資料等を見る限り、おおむね継続4年目、5年目が圧倒的に多いところです。教科による特性や各学校の事情がありますので、一概にこのとおりと言えるわけではないのですが、平均で大体4年、5年というところが多い状況です。

○佐藤委員 つまり四、五年サイクルで発行者を変えているということですね。

○牧野高等学校担当係長 そのとおりです。

○佐藤委員 ありがとうございます。参考になりました。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○中野委員 開成中等教育学校ですが、中学校と高校で使用する教科書は、全て中・高を一緒に選ばれるのですか。それとも、おのおの別々に選ばれるのでしょうか。

○長谷川教育長 別々になります。

○中野委員 そうすると、必ずしも中学校と高校の連続性を考えるわけではないのですか。

○長谷川教育長 それはどうでしょうか。配慮しているのでしょうか。

○野口高等学校担当係長 教育課程担当課の高等学校を担当しております野口と申します。どうぞよろしくお願いたします。

開成中等教育学校ですが、普通であれば、中学部を3年、高等学校を3年と区切ってやられていると想像されますが、開成中等教育学校は、6年間全体を通して各教科でカリキュラムのマネジメントを行っておりまして、中学校だけの学び、高校だけの学びではなくて、6年間をきちんと通した形でカリキュラムを組んでおります。

○長谷川教育長 教科書選定については、そういった意識をしているのかどうかということも含めて教えていただきたいのです。

○野口高等学校担当係長 各校での教科書選定においては、後期課程に入るときに中学校で学んだ教科書の中身を考えながら選定しておりますので、連続性をきちんと意識しながら教科書選定を行っております。

○長谷川教育長 それは、開成に限らず、ほかの学校もということですか。

○野口高等学校担当係長 ほかの高等学校も、中学校での教科書を分かっておりますので、そこも含めながら、各校での実態に応じて考えております。

○中野委員 私の質問の趣旨は、中学校のときの教科書選定のときに、高校はこれにしようということを踏まえて6年間を頭に置いて教科書を選定されるのかという趣旨の質問です。

○野口高等学校担当係長 中学校の部分においては全市一斉なので、そこに学校独自の考えは持てないのですけれども、後期課程の部分においては、中学校の部分を参考にしながら選定を行っております。

○中野委員 中等教育の中学校は独自でやっているのと勘違いしていたものから。

○長谷川教育長 先ほど、我々がやったものを使うことになります。

○中野委員 それでは、高校は高校だけで独自でやるということですね。

○長谷川教育長 はい。

しかし、中野委員がおっしゃるように、開成中等教育学校は一貫になっていきますので、その辺のところはしっかりリンクしながらやっていると思っております

し、先ほどの説明もそのようなことだと思います。

○中野委員 分かりました。

○長谷川教育長 ほかにございませんか。

○石井委員 細かいところの質問ですけれども、旭丘高校の外国語は継続する発行者が1者ではなくて、全て新規の発行者になっていると思うのですが、1年生から2年生の接続などの部分では、発行者が代わっても問題ないということでしょうか。

○高等学校部会部長 学校の考え方にもよるのですが、同一であったほうがやりやすい部分はあるかもしれません。

ただ、1年生と2年生の英語に関しては、扱う題材や内容等も異なりますし、高校においては発行者が違ったとしても、それによって何かやりづらさが生じるとか影響があるとは考えておりません。

○石井委員 分かりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、高等学校及び中等教育学校後期課程用につきましては、先ほど候補として挙げられた教科用図書を選定するということがよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

阿部部長、どうもありがとうございました。

それでは、最後になりますけれども、特別支援教育用の教科用図書について審議をしたいと思います。

それでは、私から部長に確認させていただきます。

特定の組織や団体、あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等は

なかったということによろしいでしょうか。

○特別支援教育部会部長 一切ございませんでした。

○長谷川教育長 それでは、特別支援教育部会の部長から、調査研究報告（答申）のご説明をお願いいたします。

○特別支援教育部会部長 特別支援教育部会部長の豊成養護学校校長の北です。よろしくをお願いいたします。

私から、特別支援教育部会の答申についてご説明いたします。

最初に、特別支援教育用の教科用図書に関する法令上の規定についてご説明いたします。

特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童・生徒は、障がいの状態や発達の段階に応じた内容の教科用図書を選び、使用することができることとなっております。

このことにつきましてご説明いたします。

スクリーンをご覧ください。

特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童・生徒が使用する教科用図書は、①のように、札幌市が採択した小学校、中学校の文部科学省検定済教科用図書の各教科の当該学年のものを使用することが基本となります。

しかし、特別支援学校や特別支援学級においては、児童・生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて各教科の目標や内容を下の学年のものに代えるなど、一人一人に応じた特別の教育課程を編成することができますので、①の当該学年の教科書を使用することが適当でないときは、設置者の定めるところにより、ほかの適切な教科用図書を使用することができます。

そこで、②のように、札幌市が採択した小学校及び中学校の文部科学省検定済教科用図書の各教科の下の学年のものを使用することができます。

また、各教科の下の学年のものの中で適切なものがない場合には、③のように障がいのある児童・生徒用に、文部科学省が著作した教科用図書、お手元の星印のついた教科用図書になりますが、これらを使用することができます。これは、国語、算数・数学、音楽の3教科のみについて著作されております。

さらに、④に記載しておりますように、各教科の内容と関連が深い絵本や図鑑などのいわゆる一般図書についても教科用図書として使用できることになっており、このことが学校教育法附則第9条に規定されております。

このように、幅広い教科用図書の中から、児童・生徒の障がいの状態や発達の状況に応じて、①から④の段階の中から適切なものを選ぶことができるようにな

っております。

特別支援教育部会においては、④の一般図書について調査研究を進めてまいりました。

なお、高等支援学校用の教科用図書については、これまでご説明した教科用図書に加え、高等学校用教科書目録に掲載されている文部科学省検定済教科用図書を使用することができますが、高等支援学校の生徒の実態により応じた一般図書を使用する場合は、高等学校と同様に校長を委員長とする教科書選定委員会を設置し、学校で使用する一般図書の候補を選ぶことができます。

今年度は、市立札幌みなみの杜高等支援学校から2冊、市立札幌豊明高等支援学校から3冊の一般図書が選定の候補となったため、併せて調査研究を進めてまいりました。

次に、調査研究の観点です。

調査研究の基本方針に基づき、取扱い内容、内容の程度、配列、分量等、使用上の配慮に加え、昨年度の需要数などについても確認し、本市の特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人が効果的に活用できる図書について、慎重かつ精力的に調査研究を重ねてまいりました。

具体的には、北海道教育委員会が示す学校教育法附則第9条の規定による一般図書採択参考資料を参考に、そこに掲載された対象となる333冊の一般図書について調査研究を行いました。

さらに、昨年度までの調査研究で審議会委員から推薦のあった採択参考資料の対象となっていない一般図書31冊、今年度の審議会委員から新たに推薦のあった採択参考資料の対象となっていない一般図書5冊及び市立高等支援学校から選定の候補として報告のあった一般図書5冊を加え、全部で374冊の一般図書について調査研究に当たっております。

これらの審議の結果、令和3年度使用の特別支援教育用の教科用図書として、調査研究の報告書答申の特支1ページから5ページの一覧にありますように、1、文部科学省検定済教科用図書の下学年用及び同一内容の拡大教科書、2、文部科学省著作教科書、これは先ほどの星印のついた教科用図書であります。3、一般図書、「くまたんのはじめてシリーズ よめるよよめるよあいうえお」ほか176冊、4、市立高等支援学校用一般用図書5冊、これらを採択の候補といたしました。

なお、調査研究報告書（答申）の特支1ページから5ページの一覧の右側、「新規継続」の中に、「新」と掲載されている図書は、新しく採択の候補とした図書であり、令和3年度用は14冊をその候補としております。

次に、採択の候補とした一般図書についてのご説明をいたします。

見本本は1冊ずつしかありませんので、スクリーンをご覧ください。

調査研究報告書には、発達の段階をA、B、Cの三つの段階で示しており、Aの段階は発達の遅れの程度が重度、Bは中度、Cは軽度を意味しており、児童・生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて適切な図書を選べるようにしております。

Aの段階は話し言葉がない子や事物への興味関心が出始め、簡単な物の分別が可能な段階の児童・生徒などが対象であり、教師などの話しかけに応じ、表情、身ぶり、音声で表現することや教師と一緒に身近なものなどについて、本を通して楽しく学べるものをどの種目においても採択の候補としております。

例えば、算数・数学の「デコボコえほん かずをかぞえよう！」では、1から10までの数について具体物と数字が絵とともに、凹凸で表現されており、指でなぞるなどの活動を通して、量の感覚とともに、数量について学習することができるよう配慮されております。

国語の「しりとりしましょ！たべものあいうえお」では、見開き2ページの中に、食べ物などが三つから五つ程度、尻取りの順で掲載されています。

例えば、手巻きずし、シメジ、ジャガイモ、木綿豆腐、フライドポテトというように、しりとり遊びをしながら、様々な食べ物の名称を覚えることができるよう工夫されています。

続きまして、Bの段階といたしましては、話し言葉があり、文字の読み書きに興味を持ち始め、事物の簡単な因果関係が分かる段階の児童・生徒などが対象であり、簡単な内容でやり取りをしながら学習を進めたり、各種目の基礎的な内容について興味を持ちながら学習することができる図書を採択の候補としています。

例えば、算数・数学の「ゆっくり学ぶ子のための『さんすう』2」では、1対1対応、量概念、数の合成など、基礎的な概念を獲得できるよう配慮されています。

生活の「みのまわりのきほん」では、日常生活を送る上での必要なスキルのうち、主に家の中での生活習慣に関する動作について、掃除や着替えなどの20の場面ごとに分かりやすいイラストとともに示されています。

Cの段階といたしましては、簡単な読み書きは可能ですが、検定済教科用図書では学習が困難な段階の児童・生徒などが対象であり、ある程度の小集団での一斉指導や調べ学習などでより知識を深めることができ、日常的に活用できる内容の図書を採択の候補としています。

例えば、算数・数学の「くらしに役立つ数学」では割引の比較、それから、デパートに行くための交通機関の時刻や料金、1か月の生活費の学習など、学習して身に付けた知識や技能をより実際の生活に生かせる内容になっております。

技術・家庭の「たのしい職業科」では、自分の将来や自立及び職業について、

15の章に分けて書かれています。具体的には、仕事の種類や仕事をするために必要な力、事務用品、事務機器の使い方、現場実習についてなどを取り上げており、将来の就労を見据えての学習を進めることができるようになっていきます。

以上のように、種目ごとにA、B、Cの段階があり、各段階の中でもさらに児童・生徒の障がいの状態や発達段階にきめ細かく応じるために、それぞれに複数冊を選定の候補としております。

実際の調査研究の過程について、一例を説明させていただきます。

こちらは、昨年度採択した社会科の「スカーリーおじさんのはたらく人たち」です。

様々な職業について、働いている人々の様子を物語風に展開するように構成されており、子どもたちの興味関心が高まるよう工夫されておりますが、一つ一つの仕事の内容や役割などについては、情報が少ない点が調査研究によって明らかになりました。

一方、委員の推薦による一般図書である「しごと図鑑」は、仕事の内容をイラストや写真を多用し理解できるよう工夫されていたり、紙面一部をめくる仕掛けなどを工夫することで、その職業の役割について調べながら学ぶことができるなど、特別な教育的支援の必要な子どもたちが主体的に学び、理解を深めることができるよう配慮されています。

そこで、今年度の社会科のB段階の一般図書として、「スカーリーおじさんのはたらく人たち」を採択の候補とはせず、「しごと図鑑」を新たな採択の候補としています。

このように、部会の中では、調査研究の観点に基づき対象となる図書の調査研究を行うとともに、それぞれの図書の比較検討なども加えながら、採択の候補を選定しています。

次に、市立高等支援学校用一般図書について、各校から1冊ずつご説明いたします。

みなみの杜高等支援学校では、情報科で「見てわかる情報モラル」を採択の候補としています。

この図書では、基礎的、基本的な情報モラルに関する事項を取り上げ、生徒が陥りやすい事例について学習することができます。

具体的な内容としては、スマートフォン活用のマナー、生徒が陥りやすいSNSのトラブルなどがあり、具体的な事例を4コマ漫画やトラブルの予防と対策などの項目ごとに分けて、分かりやすく解説されています。

豊明高等支援学校では、職業科で「ひとりだちするための進路学習」を採択の候補としています。

この図書は、就労に向けた基礎的な知識や技能を身に付けることができるよ

う、働くことや働くために社会人になるなどの六つの章で構成されています。

具体的な内容としては、「働く人たち」「人とのつき合い」「履歴書の書き方」など、就労に向けた幅広い内容について、イラストなどを使いながら分かりやすくまとめられています。

説明は以上ですが、その他の採択の候補となる図書につきましても、同様に調査研究を行った結果、本市の特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童・生徒一人一人が活用していく上で、有用性のある図書であることを確認しております。

以上、お手元の調査研究報告書のとおり、部会としてまとめたことをご報告申し上げます、私からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○長谷川教育長 ありがとうございました。

ただいまご説明がありましたとおり、特別支援教育用につきましては、児童・生徒の障がいの種類や程度に応じて、一人一人に適した教科用図書を提供できるようにするといった観点から、各種目ごとに幅広く選定の候補が挙げられております。

ただいまのご説明等に対しまして、ご質問、ご意見などがございましたら、お願いいたします。

○中野委員 教科書は分かりますが、一般図書は教科書に準ずる取扱いということで、個人個人に配付することになるのですか。

○長谷川教育長 個人に配付するということです。

○中野委員 そうすると、個人の特性に応じて、この中で教員が一番適切と思うものを選んで配付するのですか、それとも、全員に同じものを配付するのですか。

○特別支援教育部会部長 学校ごとに子どもの実態に応じて教科書を選んでいく形になります。

ですので、例えば、同じ学年でも障がいや発達の段階が多少違えば、子どもによって違う教科書が給付されることが起こります。

また、例えば、学習グループが同じような段階のお子さんに関しましては、何人かまとめて同じ教科書が給付される場合もあります。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

最後のほうで高等支援学校の教科書の例を見せていただいて、どれもとてもよい教科書だと思うのですが、そういった情報の共有は各学校間でなされているのでしょうか。

○特別支援教育部会部長 札幌の場合は、豊明高等支援学校、みなみの杜という形で場所が離れておりますので、地域性はありますけれども、内容に関しましては、それぞれの学校で共有しながら進めていただいています。ですので、今年、採択した図書がよければその情報を共有して、また次年度に向けて検討されると考えております。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。特によろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、特別支援教育用につきましては、候補として挙げられた教科用図書を選定するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 ありがとうございます。

北部長、どうもありがとうございました。

それでは、これまでの審議におきまして、中学校用教科用図書、高等学校及び中等教育学校後期課程用教科用図書並びに特別支援教育用教科用図書の選定が終了いたしました。

これらを選定した理由につきましては、これまでの審議を踏まえて事務局でまとめさせていただき、次回、8月20日の教育委員会会議で議案として提出させていただきます。

そのほかに、各委員から何かありますか。

(「なし」と発言する者あり)

## 【閉 会】

○長谷川教育長 それでは、以上で、令和2年第15回教育委員会会議を終了いたします。

長時間、どうもありがとうございました。

以 上